

ルノ旨趣ニツアリ其一ハ行政官ニ於テ公權ヲ行フヲ防クハ獄内ノ囚徒ヲ監守スルニ比スレハ其事更ニ難シ其二ハ剝奪セラレタル公權ヲ詐テ行フ者ハ其自然ノ性情ニ從フノ宥恕ヲ得サル是レナリ

本條ノ犯罪ハ政事上ノ犯罪ニ係ルカ故ニ之ヲ科スル禁錮ハ輕禁錮ニシテ即チ定役ナキモノナリ

本條ニ於テハ官吏處刑人ト通謀シ又ハ自己ノ懈怠ニ依リ處刑人ヲシテ公權ヲ行ハシメタル者ニ對シテハ毫モ罰則ヲ記セサルナリ

若シ處刑人ト通謀シタル場合ニ於テハ一般ノ原則ニ依テ從犯ノ論理ヲ適用ス可シト雖モ其懈怠ニ出テタル場合ニ於テハ其所爲ノ輕キヲ以テ不問ニ付ス可シ

第百八十三條

〔第四百九號〕 監視ノ附加刑タル禁制即チ誡令ヲ破ルノ罪ヲ罰スルノ旨趣ハ前條ノ旨趣ト同一ナリ

但シ此刑期ハ前條ノ刑ヨリ短シ其刑期ノ短キ所以ハ該犯ハ自己ノ完全ナル自由ヲ享有セントシ監視ノ爲メニ受ル所ノ妨碍ヲ免レントスル自然ノ性情アルヲ稍々宥恕ス可キヲ以テナリ

然レモ其禁錮ハ重禁錮タリ何トナレハ該犯罪ハ毫モ國事犯ノ性質ヲ有スルヲナケレハナリ且ツ其監視國事犯ノ刑ニ附加スルモノタル時ト雖モ亦然リトス○夫レ實ニ爰ニ犯罪トナルノ所爲ハ國事犯ノ所爲ニアラス投票ヲ入レ剝奪サレタル職務ヲ行フタルハ禁制ニ抵抗スルノ所爲即チ禁令ヲ離ル、モノナリ

第百八十四條

〔第四百十號〕 本條ノ規則ハ第百七十三條ノ規則ニ類似シ其旨趣モ亦之ト同一ニシテ即チ其再犯罪ノ性質ニ依リ必ス前ニ處セラレタル刑ノ存スルヲ想像セサルヲ得サルニ於テハ其再犯ノ爲メニ刑ヲ加重スルヲ得サルナリ此情狀ハ常ニ斯ノ如キ別段ノ場合ニ現出スルモノナルヲ以テ輕罪ヲ構成スル所ノ元素ト成ルナリ故ニ裁判官ハ此情狀ヲ酌量シテ以テ其刑ヲ定ムルニ及ハス立法者ニ於テ之ヲ定メタルナリ

之ニ反シテ若シ相踵ヒテ本條ニ定メタル同類ノ二犯罪ヲ犯シタル時ハ其再犯ハ前犯ノ在ルヲ以テ其罪重カル可ク而シテ其罪惡ヲ尙ホ改メサルノ故ヲ以テ再犯ノ爲メ刑ヲ加重スルヲ得可シ

第百八十五條

〔第四百十一號〕 往時日本ニ於テハ往時ノ佛國ニ於ケルカ如ク他人ノ重罪又ハ輕罪ヲ犯シ

囚徒逃走ノ罪及罪人ヲシテ其刑ヲ免レシメントスル罪



タルヲ知リテ温順、柔弱、恐怖ニ依リ若クハ憐憫ヲ以テ故意ニ之ヲ告發セサリシ者ハ法律上ニ於テ之ヲ罰シタリシカ後ニ此制度ヲ廢棄シタリ蓋シ眞ノ疑惑ニ基キ又ハ貴ム可キ証慎ニ基ヒテ告發セサリシカモ知ル可カラズ然ルニ其怠慢等閑ノ爲メニ其人ヲ罰スルハ甚ク危険ナルヲ以テナリ

然レヒ之ヲ以テ人民ハ決シテ犯罪ヲ制止スル處分ニ與關スルノ義務ナシト言フ可キニ非ス

先ツ初メニ法律上ニ於テ人民犯罪ヲ告發スルノ權利ヲ存セリ且ツ現ニ犯罪ノ確タルモノヲ認識シタル者ニ當テハ此權利ハ義務ト爲ル可キモノト言フモ可ナリ然レヒ若シ官吏其職權ノ管轄ニ於テ之ヲ知リテ告發セサル者ノ外其之ヲ告發セサルモ之ヲ罰スルノ制定アルニ非サルナリ(治罪法草案、第百十九條ヲ見ル可シ)

又法律上ニ於テ豫審判事、檢察官若クハ刑事ノ被告人ヨリ證人トシテ喚出サレタル者ハ必ス出頭シテ其知ル所ヲ提供ス可キヲ命セリ而シテ這般ニ方テハ其義務ニ背キタル者ハ刑ヲ以テ之ヲ罰ス(治罪法草案、第百九十條第百九十二條ヲ見ルヘシ)

然レヒ法律上ニ於テ猶ホ一層嚴ニ要求スル所ノモノハ他人罪人ノ跡ヲ隠蔽シテ以テ裁判所ノ探索ヲ妨碍ス可カラサル事即チ竊ニ罪人ヲ隠匿シテ以テ犯罪ノ制壓ヲ妨ク可カラキ

ル事是レナリ是レ則チ本條ノ目的ナリトス

但故意ヲ以テ藏匿又ハ隱避セシメタルヲ要スルヲ論テ俟クサルナリ

本條ノ刑ハ前條許多ノ場合ニ於ケルカ如ク本犯處刑ノ輕重又ハ發覺シタル犯罪ノ輕重ニ依テ其等差ヲ立テリ

余ハ舊條ニ記スル一等ノ増等ニ代ルニ一ノ定刑ヲ以テセリ

第百八十六條

(第四百十二號) 此犯罪ノ性質ハ前條犯罪ノ性質ト同一ニシテ裁判所ノ探索ヲ妨碍スルモノナリ木條ハ罪人ヲ隠蔽スルニ非スシテ其死體ヲ隠蔽スルモノニ適用ス是ヲ以テ本條ノ規則ハ前條ニ於ケルカ如ク一般適用ノモノニ非ス唯最重ノ犯罪ト看做セル殺人罪ニ之ヲ適用スルノミ

然リト雖モ此「殺人」ト云ヘル語ハ本條ニ在テハ唯一意ニ故意ノ殺人即チ故殺ノ義ト解ス可ラス蓋シ本條ノ深ク慮ル所ハ專ラ此ノ殺人犯ノ場合ナル事ハ照明較著ナリト雖モ過誤不注意ニ因テ人ヲ死ニ致スモノヲモ之ヲ含ムヘシ何トナレハ本條結末ノ文面ニ依レハ誤殺モ亦裁判ノ手ヲ經ヘキ場合ノ一ナレハナリ

都テ此他ノ犯罪ノ場合ニ於テハ其本罪ニ關フル物件ヲ隠蔽シタルニ付テ一般ニ毫モ罰ヲ

囚徒逃走ノ罪及罪人ナシテ其刑ヲ免レシメントスル罪



科スルヲナシ蓋シ第四百四十四條以下ニ於テ盜犯ノ贓物ヲ隱藏シタルヲ罰スル場合ノ外  
毫モ之ヲ見サル可シ

七七〇

第百八十七條

〔第四百十三號〕 法律上ニ於テハ血屬及ヒ姻屬ヨリ生スル愛情及ヒ忠實ノ自然ナル感覺ヲ  
酌量セサルヲ得ス○固ヨリ本條ハ本犯ノ血屬又ハ姻屬ノ親ヲ看テ其追捕又ハ刑ヲ免レシ  
ムルノ權利アルモノト認ムルニ非スト雖モ法律上ノ義務ト正當ノ愛情トノ間ニ在テ遂ニ  
愛情ノ感覺ニ循ヒタル者ヨハ前二條ニ定メタル場合ニ於テ宥恕不論罪ヲ與フルナリ  
此宥恕ハ本條ニ類似セル第四百四十六條ノ場合ニ於テ既ニ定メタル所ナリ

第百八十八條

〔第四百十四號〕 看守人眞ノ懈怠ニ因テ囚徒ヲ逃走セシメタル場合ノ外上ニ記載シタル諸  
犯罪ハ之ヲ遂ケタルニ非スシテ其目的ヲ闕効シ又ハ唯未遂ニ過キサリシモノアル可シ然  
ル時ハ第百二十五條第百二十六條第百二十九條ニ據テ本刑ニ照シ一等ヨリ三等ヲ減ス可  
シ

第四節 兵器及ヒ禁制ノ武器ニ關スル罪

兵器及ヒ其製造 第百八十九條 政府ノ允許ヲ受ケスシテ兵器、軍用器械、彈藥又ハ政府ニ於テ獨リ製造スル

所(又ハ政府ヨリ某者ニ特任スル所)ノ破裂質ノ物品ヲ製造シタル者ハ六月已上二年已下ノ  
重禁錮ニ處シ五拾圓已上貳百圓已下ノ罰金ヲ科ス  
輸入 允許ヲ受ケスシテ之ヲ日本ニ輸入シタル者亦同シ  
販賣 本條ニ記シタル物件ヲ販賣シ又ハ販賣セントシタル者ハ三月已上一年已下ノ重禁錮ニ處シ  
貳拾五圓已上百圓已下ノ罰金ヲ科ス(刑、第百五十七條○千八百三十四年五月二十四日ノ佛  
法、第二條及ヒ第三條)

禁制ノ兵器 第百九十條 一般禁制ノ武器ヲ製造シ又ハ之ヲ日本ニ輸入シタル者ハ二月已上一年已下ノ  
重禁錮ニ處シ貳拾五圓已上百圓已下ノ罰金ヲ科ス

唯其武器ヲ販賣シ又ハ之ヲ販賣セントシタル者ハ一月已上六月已下ノ重禁錮ニ處シ拾圓已  
上五拾圓已下ノ罰金ヲ科ス(佛刑、第三百十四條第一項○同佛法、第一條)

職工等ニ關スル刑 第百九十一條 職工又ハ雇人ノ身分ニシテ情ヲ知テ該物件ノ製造輸入若クハ販賣ニ從事シ  
タルニ過キササル者ハ前記ノ刑ノ二等ヲ減ス(刑、第百五十八條)

未遂犯 第百九十二條 此節ニ記シタル犯罪ノ未遂犯ハ之ヲ罰ス

監視 第百九十三條 前數條ニ依テ禁錮ニ處セラレタル者ハ六月已上二年已下ノ監視ニ付スルコ  
トヲ得(佛刑、第三百十五條○同佛法、第四條及第十一條)



所有ノ罪 第九十四條 前條ニ記載シタル物件ヲ販賣セス唯之ヲ所有シタルニ止ル者ハ五圓已上貳拾五圓已下ノ罰金ニ處ス(刑、第六十條○佛刑、第三百十四條第二項○同佛法、第一條)

沒收 第九十五條 上ニ記載シタル諸物件并ニ其物件ヲ製造スルニ用ユ可キ器械ハ何人ノ所有ニ係ルヲ論セス都テ之ヲ沒收ス(刑、第六十一條○佛刑、第三百十四條第三項○佛法、第四條)

要旨

第八十九條

第九十五號 兵器ノ製造ハ政府ノ獨占タル理由

第九十六號 私ニ兵器ヲ製造スルノ罪ハ國事犯ノ豫備タル事ヲ得○又別段一箇ノ輕罪トナル事アリ

第九十七號 私ニ日本國ニ武器ヲ輸入スル罪附關稅官ノ過誤ニ付疑問

第九十八號 製造人又ハ其他ノ人武器ヲ賣リ又ハ賣ントスル罪

第九十九條

第九十九號 禁制ノ武器

第九十一條

第二十號 共犯人ノ事附本犯ノ刑ノ輕キ事

第九十二條

第二十一號 本犯未遂ノ刑

第九十三條

第二十二號 監視刑ヲ附加スル理由

第九十四條

第二十三號 之ヲ所有スルノ罪附本犯ハ必ス現行犯ナルヲ要ス

第九十五條

第二十四號 沒收其經界

第八十九條

〔第四百十五號〕 凡ソ政治ノ宜キヲ得タル諸邦ニ於テハ兵器及ヒ彈藥ノ製造ハ政府ノ獨占ニ歸ス蓋シ此事項ニ在テ人民ニ工業及ヒ商業ノ自由ヲ委スルハ甚タ危險ニシテ反逆及ヒ内亂ノ場合ニ於テ政府ニ敵スル者官兵ニ抵抗スルヲ得ヘキ兵器、彈藥其他戰爭器械ノ準備ヲ爲スコト屢々之レアル可ケレハナリ

兵器及ヒ禁制ノ武器ニ關スル罪



政府ハ此物件ノ製造ヲ独占スト雖モ人民ニ命シテ其需要ノ全部又ハ一部ヲ製造セシムル  
事ヲ得尤モ然ル時ハ製造ヲ命シタル工場ニ屬スル官吏ヲシテ其製造ヲ監察セシメ以テ政  
府ヨリ命シタル量數ヲ超テ毫モ製出セサル事及ヒ其一部分ヲモ竊取セサル事ヲ檢査セシ  
ムルナリ

或人ハ言ハン政府ノ之ヲ独占スルハ更ニ他ノ理由アリ即チ一國ノ外交ヲ保全スルタメナ  
リ若シ兵器ノ製造ヲ人民ノ工業ニ委ヌル時ハ其カタメ外交ノ親和ヲ害スルヲアルヘシト  
然レ此說ニ於テ混同錯綜ノ點アリ夫レ茲ニ論スル所ノモノハ政府力兵器ヲ製造スルノ  
權ヲ有シ且之ヲ有セサル可ラサルヤ否ヲ知ルコアラ素ヨリ政府ノ此權ヲ有スル亦疑ヲ  
容レス然レハ政府タルモノ唯獨リ之ヲ專有スヘキカ或ハ人民ノ競争ヲ許スヘキヤ否ヲ知  
ルニアリ○人民ノ兵器ヲ製造スルハ外侮ヲ防クノ方法ヲ貯フルヲ害セサルノミナラス或  
ハ却テ其便方ヲ與ルモノタルヤ炳カナリ故ニ曰ク人民ニ兵器ノ製造ヲ許スノ危險ハ嚮ニ  
陳セシ政府ニ睨クノ恐アルノ一事ナリト

政府ニ於テ此製造ヲ独占スル權ハ大ニ公ケノ安寧ヲ保護スルモノナレハ立法者ハ人民ヲ  
シテ之ヲ犯サ、ラシメンカ爲メ之ニ妨害ヲ加フル者ニ對シテ嚴刑ヲ科セサルヲ得サリキ  
本條ハ愛ニ兵器及ヒ彈藥ノ製造ヲ以テ國事犯ノ豫備ノ行爲ト看做セルニ非ス然レハ此製

造ニシテ國事犯ノ性質ヲ有スルコトナキヲ保ス可カラズ若シ其性質ヲ有スルモノトセハ  
第三百二十九條ヲ適用スヘシト雖モ其兵器ヲ使用スル目的ノ確證ヲ要スヘキニ其確證ヲ得  
ルハ常ニ難カルヘシ

〔第四百十六號〕 本條ニ於テハ茲ニ製造ノ目的ヲ措テ論セス其製造ノ所爲ヲ以テ之ヲ罰セ  
リ實ニ法律ハ常ニ或ル行爲ノ未定ノ性質ヲハ論スルヲナク又犯罪ヲ企ツヘキ後來ノ目的  
ヲハ不問ニ付シ以テ唯其本來ノ性質及ヒ其現惡ヲ論スルヲ得テ決シテ之カタメ正理公道  
ニ背クコトナキナリ

余ハ嚮ニ此說ヲ應用シテ其辨解ヲナシ置キタリ(第二百八十一號ヲ看ルヘシ)其他之ニ類  
似スル場合ニ於テ重大ナル犯罪ノ豫備ノ行爲ト看做スヲ得ヘキ所爲ヲ一種ノ輕罪ト定メ  
テ罰スルコト頗ル多シ

此適例ハ之ヲ本章中ニ求ムルヲ要セス直チニ人ノ住所ヲ侵ス罪兇徒聚集ノ罪及ヒ官ノ封  
印ヲ破棄スル罪(本章第六節第六節ノ二及ヒ第七節)ヲ引證スルヲ得ヘシ  
本條ニ記スル罪ヲ罰スルニ國事犯ノ刑ヲ以テセスシテ普通犯ノ刑タル重禁錮ヲ以テスル  
所以ハ則チ此旨趣ニ因ル所ナリ

〔第四百十七號〕 又外國ニ於テ製造シタル同一ノ物件ヲ日本へ輸入スルノ罪ヲ以テ之ヲ日

兵器及ヒ禁制ノ武器ニ關スル罪



本ニテ製造シタル罪ト同等ニ置ケルハ事理當然ナリト謂フヘシ  
 此ノ場合ハ實際ノ適用上ニ於テ頗ル困難ヲ見ルヘキナリ故ニ差別ヲナサ、ル可ラス  
 若シ奸曲ノ輸入ヲ爲ントスルニ非スシテ關稅官ニ於テ之ヲ兵器ナリト認メタル時ハ稅官  
 ハ之ヲ輸入スルヲ肯セサルヲ得又肯ス可ラス再ヒ外國ニ送り還サンカタメ假ニ之ヲ其倉  
 庫ニ積入レシムヘシ此場合ニハ別ニ刑罰アラサルナリ  
 若シ奸曲ヲ行ヒ潜ニ之ヲ輸入シタル時ハ則チ本條ノ刑ヲ適用スル所ニシテ且之ヲ沒收ス  
 ヘキナリ

然レモ若シ稅官ニ於テ其兵器ヲ輸入スルヲ許シ且既ニ關稅ヲ拂ヒシ後ニ至リ之ヲ沒收ス  
 ルヲ得ル乎余ハ之ヲ原則ニ考ルニ之ヲ罰シ之ヲ沒收スルヲ得ルト信スルナリ夫レ行政官  
 ノ一部ナル關稅吏ノ過ハ豈ニ公ケノ靜謐ヲ保護スル普通法律ノ適用ヲ妨クルヲ得ンヤ但  
 タ其輸入者ノ私意奸曲ナクハ正ニ大ニ恕スヘキモノアリ故ニ余ハ苟モ其惡意ナキ已上ハ  
 之ヲ放免シテ可ナルヲ信ス然レモ其沒收ニ至テハ必ス常ニ無ル可ラス何トナレハ人民私  
 ニ兵器ヲ持スルハ天下ノ通禁ナレハナリ

〔第四百十八號〕 終リニ本條ハ自カラ兵器又ハ彈藥ヲ製造シタルニ非スシテ唯之ヲ販賣シ  
 若クハ販賣セントシタル者アル場合ヲ豫定セサルヲ得ス爰ニ其刑ハ本刑ノ半ヲ減輕スヘ

キナリ  
 若シ該物件ヲ製造シタル者ニシテ之ヲ販賣シタルモ別ニ其刑ヲ増加セズ是レ蓋シ立法者  
 ハ本犯最大ナル社會ノ損害ハ該物件ヲ造ルニアリテ之ヲ販賣スルハ則チ其製造ニ關シヘ  
 カラサル手續ナリト看做シタレハナリ且ツ之ヲ販賣セントスレハ實際其製造ノ罪ヲ發覺  
 セシムルノ媒ト成ル可ケレハナリ

第百九十條

〔第四百十九號〕 本條ニ於テハ兵器ヲ論スルニ非ス禁制ノ武器ニ關スルナリ即チ佛國ニ於  
 ケル風銃、懷劍、裝劍杖鎗等ノ如キ是レナリ  
 禁制ノ武器ノ種類ヲ刑法中ニ掲目スルハ宜キヲ得タルモノニ非サルナリ且ツ其種類ハ新  
 發明ヲ以テ變スヘキナリ携帶又ハ所有ヲ禁セラルヘキ諸種ノ武器ハ法律及ヒ警察規則ヲ  
 以テ之ヲ定ムヘシ

其武器ハ固ヨリ禁制ニ係ルモノタルカ故ニ允許ヲ得サル如何ハ論スヘキニ非ス其允許ヲ  
 ル決シテ之レアル可カラサレハナリ  
 之ヲ日本國ニ輸入スルヲ禁スルハ之ヲ製造スルヲ禁スルト亦同シ  
 此罪ノ刑ハ前條ノ刑ヨリ輕シ何トナレハ此物件ハ暴動反逆ノ場合ニ於テ前條ノ兵器ニ於

兵器及ヒ禁制ノ武器ニ關スル罪



ケルカ如ク官兵ニ對シテ攻撃又ハ抵抗ニ用ユルノ勢力アラサルヲ以テ社會ノ損害少ケレハナリ

本條ニ於テモ亦前條ノ輕罪ニ於ケルカ如ク武器ノ製造ト販賣トヲ區別シ販賣ノ場合ニ於テハ其刑ノ半ヲ減輕セリ

第百九十一條

〔第四百二十號〕 此犯罪ニ於テ毫モ發企ヲ爲シタルニ非スシテ唯其第二協力者タルニ過キサリシ者ノ爲メ刑ヲ減輕スルハ至當ナリト謂フヘシ

勿論此類ノ協力ナキニ於テハ多クハ皆ナ此罪ヲ犯スコト能ハサルナル可シト雖モ此協力ハ甚タ得易キ性質ノモノニシテ之ヲ爲スヲ得可キ人甚タ多ケレハナリ

舊草案ニ於テハ刑ノ減等ヲ二等トセリ今之ヲ減シテ一等トセンヲ欲スルニアラス然レハ裁判所ヲシテ此ノ共犯ノ輕重ヲ詳ニ計量センカタメ「一等ヨリ二等」ヲ減ストシテ綽々餘地ヲ保タシムルノ優レルニ如カス

茲ニ論スル處ノ犯人ハ從犯ニアラスシテ共犯ナルヲ注意スヘシ故ニ知ル本條ニ記スル刑ノ減輕ハ逐次減等ノ性質ニアラサルヲ乃チ本犯ノ刑ハ直接ノ刑所謂本刑ナリ他ヨリ假ルモノニアラサルナリ其前條ノ刑ヨリ稍ヤ輕キ所以ハ蓋シ本來ノ犯件變シテ其情亦

稍ヤ輕ケレハナリ是既ニ世ノ能ク知ル所ノ區別ナリ(附言參看)

〔附言〕 余ハ前ニ主犯人ノ刑ニ關セス直接ノ刑ヲ説キタリ尙ホ後ニモ説クヲアルヘシ然レハ余ハ既ニ減等ノ二様ノ説ヲ長ク述ヘタレハ(第百四十九號)他ハ能ク此ノ説ノ適用ニ任カス可シ

第百九十二條

〔第四百二十一號〕 兵器又ハ禁制ノ武器ヲ製造シタル罪ノ性質ハ極メテ明瞭ナル事情ヲ表シ有形ノ證據ヲ顯スモノニシテ假令ヒ該犯其犯罪執行ノ始メニ於テ捕獲セラルト雖モ該犯ノ目的ニ就テ疑ヲ容ルヘキモノナキナリ且ツ其執行ヲ始メタルニ於テハ既ニ甚タ鑒定シ易スキ社會ノ損害ヲ存セリ故ニ或ル場合ニ於テ法律カ輕罪ノ未遂犯ヲ論セサルノ原由ハ茲ニ現出セサルナリ然レハ佛國刑法ハ之ヲ罰セサリキ

此解釋ハ都テ法律上輕罪ノ未遂犯ヲ罰スル諸般ノ場合ニ適用ス可キモノタルヲ以テ向後ハ或ル別段ノ思考ヲ加フ可キ事アラサルニ於テハ此事ヲ再釋セス

行フテ遂ケサル犯罪ニ至テハ兵器ヲ造リ了リタル後或ル事變ニ依テ其兵器ヲ損廢ニ至ラシメタル場合ノ外製造ノ罪ニ於テハ此事決シテナカルヘシ例ヘハ試撃ノ時ノ如シ

第百九十三條

兵器及ヒ禁制ノ武器ニ關スル罪



〔第四百二十二號〕 此場合ニ於テハ容易ニ監視ノ旨趣ヲ證明スルヲ得ヘシ何トナレハ此節ニ記載シタル輕罪ヲ犯セル者ハ多クハ皆十國安ヲ害スル敵ニ與ミスルヲ以テ懲慝セラレテ再ヒ其類ノ犯罪又ハ之ニ類似スル他ノ犯罪ヲ犯スコトアルヘキカ故ニ之ヲ監視ニ付スレハ其此ニ至ルヲ妨クヲ得可ケレハナリ

第九十四條

〔第四百二十三號〕 凡ソ物件中唯之ヲ所持スルノミチ以テ輕罪ト成ルモノアリ何トナレハ之ヲ所持スルハ社會ノ危險ヲ構成シ併セテ道德上ノ罪過ヲ常ニ存スルヲ以テナリ兵器及ヒ禁制ノ武器ハ乃チ此場合ニアリトス然レモ之ヲ製造シ若クハ之ヲ輸入シ若クハ之ヲ販賣シタルコト非ラサル者ニ在テハ其刑大ニ輕フシテ罰金ニ過キサルナリ  
本條ハ禁制ノ武器及兵器ヲ製造シタル者ノ外罰セサルヨリハ寧ロ唯之ヲ所持スル者ヲモ罰スルコト於テ更ニ克ク其目的ヲ達セリ何トナレハ凡テ人民ハ罰金ヲ科セラレ且沒收セラレ(次條ヲ見ルヘシ)ノ恐アルヲ以テ畢竟之ヲ所持スルモ珍奇ノ物件タルニ過キサル可キ此武器類ヲ買フヲ稀ナル可ク而シテ買者ノ稀ナルヲ以テ其製造ヲモ盛ラサル可ケレハナリ但シ此輕罪ハ現行犯タル時ノ外之ヲ罰セサルコトヲ注意スヘシ犯人現ニ武器ヲ所持スル者タルコトヲ要スルナリ故ニ其者ノ手ニ於テ此物件ヲ見タル旨ヲ口實トシテ證據ヲ立ル

者アリト雖モ是レカ爲メ其罪ヲ論スルハ本條ノ許サ、ル所ナリ

其他之ト同シク現行犯ノ外罰スルヲ得サル他ノ諸輕罪アリ(治罪法草案、第百十四條及ヒ

其次條第百十八條及ヒ其次條ヲ比照スヘシ)

第九十五條

〔第四百二十四號〕 本條ハ其第一ノ規則ニ於テ常律上ノ規則(第五十五條ノ第一項)ヲ適用シタルモノニ外ナラス然レモ本條之ヲ明記セル所以ノモノハ此類ノ事項ニ關シ犯罪物件ヲ沒收スル規則無カリセハ人之ヲ怪ム可ケレハナリ

第二項ハ製造者ニ對シ其沒收ヲ限定スルヲ目的トス故ニ製造ニ使用スル總テノ器械ヲ沒收セス唯其犯罪使用ニ必用ナルモノ、ミニ限ル故ニ若シ日本國ニ兵器ヲ輸入スルアラハ其搭載スル船舶ハ沒收セサルナリ

該犯罪ヨリ生ジタル利益ニ付明文ナシ蓋シ第五十五條ノ第三項ノ原則ヲ適用スル所ナリ

第五節 無產ノ罪并ニ乞丐ノ罪

無產人

第百九十六條 本籍ノ家又ハ常住ノ家ナク職業或ハ其他ノ正當ナル營生ノ產業ナクシテ公ケノ道路公ケノ場所或ハ無人ノ場所ニ徘徊スル者ハ無產ノ罪トシテ十一月已上十二月已下ノ重禁錮ニ處ス(刑、第四百二十五條第十二項)佛刑、第二百六十九條ヨリ第二百七十一條ニ

無產ノ罪并ニ乞丐ノ罪



至ル)

重加ノ情 次ノ情狀ニ依リ各刑ノ一等ヲ加フ

其一 若シ兇器偽鑰又ハ家屋ヲ毀壞スルノ具及ヒ其他犯罪ノ用ニ供ス可キ器械ヲ持スル時(佛刑、第二百七十七條)

其二 無産ノ者兇器ヲ持セサルモ他人ニ暴行ヲ加ヘ又ハ脅迫シタル時(佛刑、第二百七十九條)

監視

(何ノ場合ニ於テモ)無産人ハ一年已上二年已下ノ監視ニ付ス(佛刑、第二百七十一條)

嫌疑ノ物件ヲ差押ル事

第九十七條 無産人身分不相應ノ貨幣又ハ珠玉其他價額アル物品ヲ所持シ所持ノ理由ヲ證明スル事能ハサル時ハ假ニ此物件ヲ差押ヘ置キ監視ノ期限間他ヨリ其返還ヲ求ムル者ナクハ其期限後ニ之ヲ本人ニ還付ス(佛刑、第二百七十八條)

刑ノ停止

第九十八條 無産ノ罪ニ處スト雖モ邑(其他公舎)又ハ平人ヨリ作業ト住居ヲ與ヘ將來ノ行狀ヲ保證シテ其交付ヲ請フ時ハ行政上ノ處置ヲ以テ第九十六條ニ記シタル禁錮及ヒ監視ヲ停止スルコトヲ得

裁判ノ停止

若シ判決前ニ其保證ヲ申出テ其交付ヲ請フ者アル時ハ裁判所ハ其裁判ヲ中止シ且其事件ヲ全ク取消スヲ得(佛刑、第二百七十二條)

乞丐

第九十九條 身体強壯ニシテ平生乞丐ヲ爲ス者ハ十五日已上二月已下ノ重禁錮ニ處ス十二歳未滿ノ幼兒ヲシテ己レノ爲メニ乞丐ヲ爲サシメタル者亦同シ(佛刑、第二百七十四條)

第二百七十五條

第九十九條ノ二 第九十六條第九十七條及ヒ第九十八條ハ無産ノ徒ニアラサルモ此三條ニ記スル情ヲ以テ身体強壯ニシテ乞丐スル者ニ並ヒ適用スヘシ(佛刑、第二百七十六條ヨリ第二百八十條ニ至ル)

要旨

第九十六條

第四百二十五號 無産ノ罪ノ性質

第四百二十六號 本犯ヲ構成スル原素

第四百二十七號 本犯ハ現行犯ニアラサレハ罰セス

第四百二十八號 重加ノ情及ヒ監視ニ付草案ノ新案

第九十七條

第四百二十九號 無産人ノ所持セル物件ノ假差押

無産ノ罪并ニ乞丐ノ罪



第九十八條

第四百三十號 保證ヲ申出ル者アル場合ニ於テ裁判ノ差止又ハ刑ノ停止

第九十九條

第四百三十一號 乞丐犯ノ性質ハヒチニ附住居ノ條件及ヒ其結果

第九十九條ノ二

第四百三十二號 草案ノ補加

第九十六條

〔第四百二十五號〕 外國ノ刑法無產人ヲ罪スルモノ多シ今其ノ罪ノ性質ヲ陳述セン

別ニ惡事ヲ爲サ、ル無產人ワカボンドーシユヲ罰スルハ人ノ或ハ怪シム所トナラン實ニ常住ノ家ナクシテ道路ニ徘徊スルハ不正ノ事業タルヨリ寧ロ不幸又ハ奇人ノ結果タルカ如シ

然リト雖モ立法者ハ常住定業ナキ此有様ヲ見テ常ニ社會ニ危難ナルモノト做セリ

尤モ此有様ニ就テ刑罰ノ第二ノ原素タル道德上ノ損害ヲ見ルコト頗ル難シト雖モ然レモ斯ノ如キ不規則ノ懶惰泥醉放蕩ヨリ生シ來ルノ有様ニ外ナラスト認定スルヲ得ヘシ何トナレハ開化ノ國ニ在テ唯一ニ不幸ノ故ヲ以テ家ヲ失ヒ產業ニ離レタル者ハ其再ヒ產業ヲ得ル迄必ス公私ノ扶助ヲ得ヘキヲ以テナリ

然レモ此罪ヲ罰スル所以ノモノハ法律ハ唯道德上既往ノ損害ト社會公益上將來ノ危難トヲ臆測認定シタルニ出テサルカ如シ若シ否スノハ無產ノ徒カ社會ニ惹起スヘキ危難ヲ以テ現然タル社會ノ惡害ト看做シタル歟故ニ此罪ハ特別ニ論述スヘキ性質アリ〔第三百八十一號ヲ看ルヘシ〕

佛國ノ立法者モ異例ノ方式ヲ以テ「無產ハ一個ノ輕罪ナリ」〔佛刑第二百六十九條〕ト記シタルヲ見レハ亦其他罪ト異レル所アルヲ知レルナルヘシ

〔第四百二十六號〕 今其罪ノ性質ヲ論セン

第一本籍ノ家或ハ常住ノ家若クハ少クトモ屢々止宿スルノ家ナキモノタルヲ要ス若シ此性質ヲ闕ク時ハ無產ノ罪ヲ以テ之ヲ論ス可ラス故ニ家情ノ不快ニ因リ憤怒又ハ身体ノ苦痛ニ任ヘス目的ナク所在ニ徘徊スル者ハ無產人ニアラサルナリ又幼年父母ノ譴責ヲ受ケ〔其譴責ノ理ト不理トヲ問ハス〕親ノ家ヲ去テ歸ラサル者モ無產ヲ以テ論スヘカラサルヤ固リナリ

其第二ノ性質ハ職業ヲ行ヒ若クハ公私ノ利息年賦金又ハ扶助金ヲ受クル等ノ正當ノ營生產業ナキモノタルヲ要ス然リト雖モ手品師、滑稽家、歌兒、俳優等ノ諸所ニ徘徊スル者ハ假令ヒ卑賤ナルモ公然ノ職業アルヲ以テ定リタル住居ナキヲ得且正當ノ營業アル者ト云フ

無產ノ罪並ニ乞丐ノ罪



ヘキモノナレハ之ヲ無産人トスヘキコ非ス

又公ケノ場所又ハ原野森林ノ如キ無人ノ場所ニ徘徊スル者タルヲ要ス故ニ其既ニ私ノ小屋、エタ廐舎、穀倉コ入り所有者又ハ其僕婢ノ之ヲ隠シタル時ハ追捕スヘカラス

火災ニ依テ家ヲ焼失シタル罹災人道路ニ徘徊スルヲ無産ノ徒ト看做ス可ラサルヤ更ニ辨ナ俟タス此者ハ天災ノ被害者ニシテ且固リ職業生産ヲ有スヘキ者ナリ(附言參看)

(附言) 毎年殆ト冬期ニ至レハ數千ノ人屋ヲ灰燼ニスル大火ノ後罹災者ノ道路ニ彷徨スルアルヲ見サルハ實ニ日本人民ノ榮譽タルヲ注意スヘシ罹災人ノ多クハ一時寺院

又ハ公ケノ避難所ニ救助サル又其大抵ハ各住家ヲ再建スルマテハ親戚朋友ニ依テ救助セラルハナリ

〔第四百二十七號〕

又終結ノ性質トシテ徘徊ノ所爲ハ其追捕ヲ始ムル時ハ現行タルヲ要スト附添スヘシ法律ハ現ニ徘徊シ居ルヲ欲スルヲ尙ホ第四百九十四條ニ於テ禁制ノ武器ヲ所持スルハ現ニ其ヲ所持スル時之ヲ罰スルト同例ナリトス

故ニ此犯罪後ニ未ダ時ヲ經ルヲナキモ無産徘徊ノ所爲ヲ罰スヘカラス况ンヤ慈善者ニ救ハレ又ハ雨露ヲ凌クヲ得タル時ニ於テナヤ

眞正ナル有益ナクノハ多少確實ナラサル一紙ノ證據ニ依據シ犯罪後ニ其成績ヲ檢究スルハ法官ノ失錯アルヘキ危險ノ場合ナリ是亦其場合ノ一ナリ

〔第四百二十八號〕

社會ノ危難更ニ大ニシテ惡意ノ臆測更ニ明カナルニノ場合ニ於テハ其刑ヲ加重ス

草案ハ一ノ重加ノ情狀ヲ豫定セシニ過キス余ハ次ノ第二百條ヲ借リテ第二ノ重加情ヲ補増スルヲ必用ナリト信ス

第百九十七條

〔第四百二十九號〕 本條ノ無産人カ所持スル物件ヲ差押ユルハ刑罰ニ非ス豫防ノ處置タリ而シテ他人ノ權利ヲ推測シテ之ヲ保全スルモノトス實ニ此物件ハ竊盜シタルモノト思量

スルヲ以テナリ 假令ヘ法律上ニ於テ他ヨリ此物件ヲ求ムル者ナキ場合ニ在テスラ無産人ニ之ヲ還付スル

無産ノ罪並ニ乞丐ノ罪



ヲ許サ、ル者トスルモ尙此差押ハ其物件ヲ還付スルノ性質ヲ有スル也唯知レサル有權人  
ヘ之ヲ還付セスシテ之ヲ官ニ還付シ官ニ於テ永ク之ヲ領置スルノミ  
本條ハ斯ノ如ク遠ク竊盜ノ思量ヲ推進シタルニ非ス故ニ此差押ハ他ヨリ其物件ノ返還ヲ  
求ムル者ナキニ於テハ無產人ニ還付スルノ約束ヲ以テ一時之ヲ爲スニ過キサルノミ

第百九十八條

〔第四百三十號〕 此規則ハ佛蘭西刑法第二百七十二條ニ模擬スルモノトス

無產ノ罪ノ如キ例外ノ事項ニ在テハ畢竟其刑ハ既往ノ罰タルヨリモ寧ロ將來ノ犯罪豫防  
ノ處置タルヲ以テ若シ僅ニ保證ヲ提供シテ交付ヲ請フ者アル時ハ本條其刑ヲ寬貸スルナ  
リ

本草案ノ明文ニ依レハ縣令ニ刑ヲ停止スルノ權ヲ與ヘタルハ既ニ刑ヲ宣告サレタル場合  
ヲ眞ニ想像豫定セシモノ、如シ是則チ司法事務ニ非スシテ行政事務ナリ若シ刑ノ宣告未  
タナキニ於テハ裁判所ハ被告ニ審判ノ停止又ハ確定ノ放免ヲ與ルノ權ヲ握ルヘキモノト  
思考ス

又本條ノ明文ニ於テハ邑（但シ一般ニ無產人出生ノ邑タルヘシ）及ヒ慈善アル平人ヨリ交  
付ヲ請フコトヲ明記スルノミ然レハ慈院又ハ其他ノ公舍ヨリ交付ヲ請フコトモ明文ニ加フ

レハ更ニ可ナラン

歐羅巴ニ在テハ貧民救助會社及ヒ無住者又ハ出獄人庇護會社ノ數頗ル増加シテ甚タ有益  
ナルモノト成リタリ日本ニ於テモ亦是等ノ會社盛大ニ至ル可シ本邦ノ如キ慈善者甚タ多  
キヲ以テ唯之ヲ結合組織スルヲ要スルニ過キサルナリ

第百九十九條

〔第四百三十一號〕

乞丐モ亦輕罪ナリトス深ク考ヘサル者ハ此罪ノ道德ニ背キ社會ニ害ア  
ル所以ヲ視出サ、ルヘシト雖モ其二個ノ特別ノ性質ニ注意セハ直チニ其然ル所以ヲ曉知  
スヘシ

第一ニ乞丐者ノ身體強壯ナルコトヲ要ス之ヲ詳言スレハ年齡及ヒ其力ニ於テ勞働ニ堪ユル  
コトヲ要スルナリ勞働ヲ以テ生活スルヲ得ル者ニシテ愁訴、偽裝ヲ爲シ若クハ宿痾ヲ假  
伴シテ人ノ恩施ヲ得以テ生活セント欲スル者ハ懶惰ノ最モ甚タシキモノナリ何トナレハ  
畢竟其懶惰ニ依テ人生最賤ノ品格ヲモ失フタルヲ以テナリ  
又其乞丐ハ平常之ヲ爲スコトヲ要ス故ニ身體強壯ナル者ト雖モ一時作業ナク且ツ資產ナ  
クシテ他人ニ救助ヲ乞フタル者ハ此限ニ非ラス平常乞丐ヲ爲スハ則チ懶惰ノ癖ヲ改メサ  
ルノ證トス（附言參看）

無產ノ罪並ニ乞丐ノ罪



〔附言〕常慣<sup>〇</sup>ヲ以テ犯罪ノ原素トスル罪ハ第四十二號ノ二ノ第四項ヲ看ルヘシ  
 既ニ平常ニ慣<sup>〇</sup>レ行フノ條件ヲ要スル已上ハ本犯ノ被告ニ對シテ其現行ニアラサル事柄ヲ  
 舉テ乞<sup>〇</sup>丐ノ證據トセサルヲ得ス故ニ之ヲ拘留スルハ被告ノ住宅ニ於テスルヲ得ルナラン  
 然レモ官官之ヲ發覺シテ再ヒ乞<sup>〇</sup>丐ヲ方ニ行フノ現時ニ在テノミ之ヲ押ユルヲ法律ノ精神ニ  
 適合スルコト更ニ深カルヘシ

乞<sup>〇</sup>丐ハ其初メノ原因ト及ヒ之ヲ改メサルトニ於テ其道德ニ背ケルノ所爲ヲ著スコ業已ニ  
 明白ナリ

其社會ノ損害ニ至テハ二様アリ其一ハ確實ナル現在ノ損害ニシテ又其一ハ推察スルヲ得  
 ヘキ將來ノ損害ナリトス

其確實ナル現在ノ損害トハ則チ經濟上ノ害ヲ謂フナリ何トナレハ乞<sup>〇</sup>丐者ハ貨物ヲ消耗シ  
 テ之ヲ生出スルニ非ス又生活スル爲メ自カラ勞働ヲ爲サ、ルヲ以テ乞<sup>〇</sup>丐者ノ生活シ得ン  
 ニハ他人其勞働ヲ爲セルヲ以テナリ凡ソ乞<sup>〇</sup>丐ノ罪ヲ寬恕スル諸邦ニハ乞<sup>〇</sup>丐者輻湊シ其邦  
 ハ一般ニ貧ナルモノトス蓋シ甲者乞<sup>〇</sup>丐スレハ之ニ憐憫ヲ加フル乙者ヲシテ貧ナラシムル  
 ヲ以テナリ

又第二ノ社會ノ損害ハ無産人ノ社會ニ受ケシムル所ノ危險ニ類スルモノナリ何トナレハ

乞<sup>〇</sup>丐者ハ必スシモ常ニ憐憫者ニ遭遇スルニ非ス又既ニ憐憫者ヲ厭ハシメタルヲ以テ遂ニ  
 ハ竊盜又ハ人ヲ殺ス者ト爲ルヘキノ恐アレハナリ

故ニ本條ハ十分ニ犯罪タルノ性質ヲ示シ且猶ホ後來ニ於テ更ニ重キ犯罪ト成リ得ルモノ  
 ハ正理公道ニ適シテ之ヲ罰スルコトヲ得ルナリ

又本條ニ於テハ十二歳未滿ノ幼兒ヲシテ己レノ爲メニ乞<sup>〇</sup>丐ヲ爲サシメタル者ヲ乞<sup>〇</sup>丐ノ罪  
 トシテ罰セリ蓋シ其幼兒該犯ノ實子タルヘキヲ要スルニ非ラサルコト論ヲ俟タス其實子  
 タルモ罪ヲ宥恕スヘキニ非サルナリ〔附言參看〕

其幼兒ノ年齢十二歳ヲ以テ最上<sup>〇</sup>限ト定メリ然レモ十二歳以上ノ兒ヲ乞<sup>〇</sup>丐セシムル者モア  
 ルヘシ而シテ之ヲ罰セサルハ奇怪ナリト謂フヘシ然レモ十二歳以上ニシテ乞<sup>〇</sup>丐ヲ爲シタ  
 ル者ハ其年齢ニ基ヒテ等差アル宥恕ヲ除クノ外自カラ犯者ト成ルヲ以テ其者ノ共犯若ク  
 ハ從犯トシテ該犯ヲ罰ス可キナリ

〔附言〕頒布ノ正條ハ無産ノ徒ヲ唯違警罪トシテ罰スルニ過キス(第四百二十五條ノ第  
 十二項)而シテ其重加ノ情狀ヲ刪除シタリ

乞<sup>〇</sup>丐犯ニ就テハ頒布ノ正條ハ何ニモ記セス他ナシ既ニ別段警察法ニ依テ之ヲ禁シタレ  
 ハナリ

無産ノ罪並ニ乞<sup>〇</sup>丐ノ罪



〔第四百三十二號〕 草案ハ乞丐ノ徒ニ對シ監視ヲ附加セス亦之ヲ附加スルト否トヲ法官ニ委セス

佛蘭西ノ刑法ハ本犯ノ或ル情狀ニ依テ重加スル場合ニ於テハ乞丐ニ附加スルニ此ノ監視ヲ以テセリ

是ニ由テ始メテ草案ニ一ノ闕漏アルヲ認メタリ夫レ乞丐モ亦無産ノ徒ニアラスト雖モ然レモ無産ノ罪ヲ重加スル處ノ二情自ラ存シテ且乞丐犯ノ一方ヨリ考察スルモ社會ノ危險ヲ生スルハ何ソ無産ノ罪ニ異ナルアラシヤ是ニ由テ之ヲ觀レハ此ノ同情ノ場合ニ於テ監視ノ刑亦均ク要用ナラサルハナカルヘシ

今法律ノ裁判官ニ嚴禁スル處ニシテ且立法者ニ偏屬スル處ノ類推ノ方ニ據リ乞丐者ニ其所有ノ理由分明ナラサル價格ノ物件ヲ假ニ差押ルノ例ヲ適用スヘキハ敢テ疑ヲ容レサルナリ(玆ニハ其住居ニ就キ差押ルモ可ナリ)又之ト相償フテ若シ乞丐者ノ作業ト行狀トヲ保證スルコトヲ申出ル者アラハ刑ヲ停止スルノ恩惠ヲ與フヘキナリ

是レ此ノ附條ノ前三條ニ照應ヲナスノ目的ナリ

第六節 人ノ住所ヲ侵ス罪

晝間住所ヲ侵ス罪

第二百條 晝間故ナク竊ニ人ノ住居セル家屋其構内又ハ其附屬物内ニ入り若クハ來入ヲ許ス時間ノ外ニ公立ノ建造物(人ノ看守シタル建造物劇場)又ハ寺院ニ入りタル時一タヒ之ニ

去ル可キヲ命シタルニ諾セサル者ハ十一日已上二月已下ノ重禁錮ニ處シ貳圓已上拾圓已下ノ罰金ヲ科ス

刑ノ重加 左ニ記載シタル情狀アル者ハ假令ヒ去ラント云フト雖モ各々四分ノ一ヲ加フ

- 第一 家屋内ニ潜伏シタル時
- 第二 門戶牆塼ヲ踰越毀壞シ若クハ偽鑰ヲ用ヒテ家屋又ハ其附屬物内ニ入りタル時
- 第三 兇器又ハ犯罪ノ用ニ供スヘキ器械ヲ持シタル時
- 第四 兇器ヲ持セスト雖モ人ニ對シテ暴行ヲ爲シ又ハ脅迫シタル時但シ暴行脅迫ノ刑本刑ヨリ重キ時ハ此限ニアラス
- 第五 二人已上ニテ犯シタル時(刑、第百七十一條○佛刑、第百八十四條第二項)

夜間人ノ住所ヲ侵ス罪

第二百一條 夜間故ナク人ノ住所ヲ侵シ又ハ前條ニ記スル公立ノ建造物寺院若クハ其附屬物ニ入りタル時ハ該犯退出ヲ肯スル旨ヲ述ルト雖モ一月已上六月已下ノ重禁錮ニ處シ四圓已上貳拾圓已下ノ罰金ヲ科ス若シ前條ニ記載シタル情狀アル時ハ各々一等ヲ加フ(刑、第百七十二條)

人ノ住所ヲ侵ス罪



皇居ヲ侵ス罪

第二百二條 故ナク皇居ノ一ニ入リタル者ハ晝間ナラハ其刑二月已上一年已下ノ重禁錮ニ處シ且拾圓已上五拾圓已下ノ罰金ヲ科ス夜間ナラハ六月已上二年已下ノ禁錮ニ處シ貳拾圓已上百圓已下ノ罰金ヲ科ス晝夜間共前條ニ記スル重加ノ情ヲ考察セサル可ラス(刑、第百七十三條)

要旨

第二百二條

第四百三十三號 竊ニ謀リタル他ノ犯罪ヲ認定スルノ結果ニ依テ此ノ犯罪ヲ罰ス

第四百三十四號 刑ノ免除及ヒ其加等

第二百一號

第四百三十五號 犯罪時間ニ依テ罪情ノ輕重ヲナス効力

第二百二號

第四百三十六號 皇居ニ於ル別段ノ場合

第二百二條

〔第四百三十三號〕 是レ亦更ニ重キ犯罪ノ生スルヲ恐レテ之アラソク認定シ立法者カ之ヲ輕罪トシテ罰スル所ノ所爲ナリトス

人若シ此所爲ノミヲ以テ之ヲ考察シ該犯ノ或ハ惡意ヲ包藏スルアルヲ措テ察セサル時ハ人ノ住居ヲ侵ス罪ニ於テ其道徳上ニ背キ社會ニ害アルノ甚タ少キヲ見ルノミ況ンヤ本條ニ明記セル加重ス可キ情狀アラサル者ニ於テヤ

然レモ立法者ハ實驗ニ據テ此法ヲ設ケタリ且ツ他ノ罪事ヲ犯スノ意ナクシテ〔竊ニ〕他人ノ住所ニ侵入スル者アルハ得テ解シ難キ所ナリ〔附言參看〕

〔附言〕 余ハ初メ本條ニ記スル諸犯所ニ劇場ヲ加ヘタリシカ法律ノ豫見ヲ餘リ收縮シタル區域ニ限ル可ラサルナリ然ルニ今頒布正條ノ明文ヲ採ルノ幸ヲ得タレハ茲ニ之ヲ揭ク則チ〔人ノ看守〕タル建造物ナル普汎ノ法語ハ此ノ頒布正條ヨリ得タル所ノ法語ナリ

ナリ

若シ該犯好奇ノ情ニ依テ動カサレタルトノ證據ヲ立テ又ハ該家人ト不正ナル秘密ノ交(是レ必スシモ常ニ罪トスヘキニアラス)アルヲ以テ其許可ヲ以テ入りタルトノ證據ヲ立テタル時ト雖モ本條ノ刑ヲ免ルヘカラス何トナレハ該家主ヨリ許サレタルニ非ス又默許セラレタルニアラスシテ且ツ多少其住人ヲ驚愕周章セシムルヲ以テナリ

〔第四百三十四號〕 本條第一項ニ據レハ無法ニ住所ヲ犯シタル者若シ最初ノ禁止ニテ去リタル時ハ其罪ヲ論セサルナリ何トナレハ其直ニ去リタルハ彼ノ有罪ノ意想アルノ疑ヲ消

人ノ住所ヲ侵ス罪



滅スレハナリ又住所ニ入ルヲ竊カナラサル時ハ其罪ヲ論セス何トナレハ此ノ場合ニ在テハ惡意アルヲ測想スヘカラサレハナリ○竊ニ住所ニ入り且最初ノ禁止ニテ尙ホ去ラサル者ハ此ノ不論罪ノ典ニ與カラサルハ更ニ言フヲ俟タサルナリ  
然レモ此二不論罪ハ晝間人ノ住居ヲ侵シタル者ニ適用スルノミ夜間人ノ住居ヲ侵シタル者ニハ唯次條ヲ適用スルアルナリ且ツ加重スヘキ五個ノ情狀中ノ一アル時ハ晝間ノ侵入ニ之ヲ適用セサルナリ

此加重スヘキ情狀ハ解釋ヲ要セス都テ住人ノ騷擾ヲ増加シ其驚愕ヲ甚シフシ併セテ犯罪ノ意アルノ思量ヲ増加スルノ性質アリトス

本條何レノ場合ト雖モ若シ第三百六十四條ニ依リ脅迫ノ所爲ノミヲ以テ更ニ嚴刑ニ處スヘキノ脅迫ヲ爲シタルカ又ハ重大ノ暴行ヲ爲シタル時ハ此第二百條ニ依テ論スルヲ止メ以テ更ニ重キ此脅迫又ハ暴行ノ刑ニ處スルコト論ヲ俟タサルナリ茲ニ此ノ更ニ重キ刑ニ讓ルヲ増補スヘキヲ信ス蓋シ暴行犯ニ於テハ屢々之ヲ見レモ脅迫犯ニ於テハ未タ之ヲ見サルナリ第百六十七條及ヒ第百七十二條ニ於テモ亦均ク之ヲ補填スヘキナリ

第二百一條

〔第四百三十五號〕 夜間ニ在テハ住人ノ安息ヲ要スルノ故ヲ以テ人ノ住居及ヒ公立ノ建造

物ノ侵スヘカラサルコト晝間ニ勝レリトス

且夜間ニ在テハ更ニ監察ヲ爲シ難キカ故ニ法律上ニ於テ一層其安寧ヲ保護セサル可カラズ并ニ夜間竊ニ侵入スル者ハ正直ナル旨趣ヲ以テ之ヲ解シ難キカ故ニ惡意アルノ疑念ヲ増スヘシ之ヲ盜賊又ハ放火ト恐ル、モ過當ニアラサルナリ故ニ其刑ノ嚴ナル一倍ニ過ク又該犯禁止ニ應シテ直チニ去ルヘキ旨ヲ述ルト雖モ是カ爲メニ刑ヲ免レシム可カラサルハ嚮ニ述ヘシカ如シ

且ツ前條ニ記載シタル加重スヘキ五個ノ情狀アルトハ各其刑ノ四分一ヲ増加ス然リト雖モ爰ニ之ヲ論スルニ當テ本刑ヲ適用ス可ラスト斷言シテ敢テ疑ヲ容ルヘカラサル一ノ場合アリ何トナレハ縱ヒ其事ハ法律ノ明文ニ觸ル、モ法律ノ精神ニ乖ケハナリ請フ一例ヲ擧ケテ之ヲ言ハシ茲ニ一少年アリ將ニ兵役ニ徵サレントスルニ際シ約束ノ妻ト再期ノ訣別ヲナシ且一旦約セシ夫婦ノ契ヲ更ニ固フセンコト欲シタリ時ニ約束ノ嬢婦某家ノ家婢ニ雇レ其主人如何ナル情實ナルカ此ノ婚姻ノ約束ヲ拒メリ少年遺憾ニ任ヘス其主人ノ牆壁ヲ踰ヘ竊ニ庭中ニ入りテ兵器ヲ持シ(恰モ此時軍人ナレハナリ)潜伏シ其他之ニ加ルニ時刻已ニ更ケテ夜間ニ此事アリシト假想スヘシ嗚呼是レ既ニ三箇ノ重加ノ情狀ヲ以テ主人ノ住所ヲ侵シタルナリ然リト雖モ何ソ之ニ刑ヲ適用スヘケンヤ其犯罪ノ疑ハ

人ノ住所ヲ侵ス罪



其事柄ノ別段ナルノ證據ニ依リテ分明ニ氷解スヘケレハナリ

第二百二條

〔第四百三十六號〕 舊法ニ於テハ此犯罪ヲ特ニ天皇陛下ニ對スル大不敬ノ罪トシテ大ニ其刑ヲ嚴ニシタリ然ルコ今日ニ在テハ之ヲ皇帝ニ對スル不敬ノ罪トスルヨリモ寧ロ之ヲ天皇陛下ノ安寧ヲ害シ且他ノ住所ヲ侵スノ罪ヨリモ一層人心ノ兢々ヲ惹キ起スノ所爲トシテ罰スト云フヘキナリ○畢竟此犯罪ハ深ク恐ル、コ足ラス何トナレハ豫テ皇居ノ守衛嚴重ナレハ之ヲ防クニ容易ナレハナリ

舊草案ノ正條ハ此ノ場合ノタメニ其刑ノ一等ヲ加ヘタリ然レハ人或ハ之ヲ以テ前條ノ刑ニ逐次加等ノ例ヲ適用スルモノト解スルノ恐アリ逐次加等ノ例ハ重加ノ情狀ノ爲ニ備ヘテ茲ニハ一ノ本刑ヲ定ムヘキ所ナリ且前刑ニ四分ノ一ヲ加ルハ甚タ輕ニ失スルヲ炳カナリ故ニ犯罪ノ時間ニ隨テ更ニ情ノ差等ヲ分チ一ノ本位ノ刑ヲ設ケタルナリ○今試ミニ此ノ規則ヲ以テ目前ニアラスシテ天皇ニ對スル不敬ノ規則(第百三十二條)ニ照應スヘシ乃チ知ル潜ニ皇居ニ入ルノ罪ノ爲ニハ實ニ更ニ嚴ナル刑ニ達シタルヲ又五箇ノ重加ノ情アラハ之ニ對シテ刑ノ增加アルヲ前段ニ同シ  
正條ハ皇居ニ侵入シタル者アル時現ニ其皇居ニ天皇ノ在御スルト否トチ分クモ亦平常ノ

皇居ナルト假設ノ皇居ナルトチ別タキルナリ○唯本條ノ適用ス可ラサル一ノ場合ハ皇居ニアラスシテ離宮ト稱スヘキ宮殿是ナリ例ヘハ濱御殿ノ如キモノ此場合ニ在テハ第二百條ヲ適用スルアルノミ

第六節ノ二 兇徒集會ノ罪

(草案委員ノ少數ニ依テ成ル草案)

本犯ノ性 第一條 人ノ身体又ハ財産ニ對シ借ニ又ハ各個ニ重罪輕罪ヲ犯スノ目的ヲ以テ集會ヲ爲シ且其利益ヲ共同ニスルノ約ヲシタルノ訴ヲ受ケシ者ハ其集會ノ所爲ノミヲ以テ次ノ如ク罰ス

刑用 集會ノ煽動者又ハ其首魁及ヒ集會ニ或ル權威ヲ行フタル者ハ二年已上五年已下ノ重禁錮ニ處ス

其他ノ集會人ハ一年已上三年已下ノ重禁錮ニ處ス  
前二箇ノ場合ニ於テ共ニ其集會ニ因リ犯罪ヲ犯シタル者ニ對シ更ニ重キ刑ノ適用スヘキモノアル時ハ此ノ限ニアラス(佛刑、第二百六十五條ヨリ第二百六十八條ニ至ル)

從犯 第二條 情ヲ知リテ集會人ノ一人又ハ數人ニ兵器又ハ其他犯罪ノ方法、止宿所、集會所又ハ隱匿所ヲ供給シタル者ハ兇徒集會犯ノ從ヲ以テ論ス(佛刑、第六十一條、第二百六十八條)

兇徒集會ノ罪



不論罪

八〇〇

第三條 未タ犯罪ヲ爲サ、ル前且未タ追捕ニ着手セサル前ニ方テ集會ヲ退キタル尋常ノ集會人及ヒ重要ノ首魁及ヒ第二等ニ位スル首魁ニシテ未タ犯罪ヲ爲サ、ル前ニ方リ既ニ其追捕ニ着手シタル後ト雖モ自首シテ縛ニ就キ其他ノ集會人ヲ陳供シタル者ハ其罪ヲ論セス  
第四條 前記ノ第一條第二條ニ依リ處斷サレシ者及ヒ前條ニ依テ不論罪トナリシ者ニ對シ一年已上三年已下ノ監視ヲ附加ス可シ

監視

要旨

第一條

第四百三十七號 草案ノ闕漏ヲ補填スルノ要用○此ニ就キ佛國刑法ノ如キ嚴ニ過クルノ制ヲ取ルヘカラス

第四百三十八號 此ノ新刑ノ區域及境界

第四百三十九號 刑用

第二條

第四百四十號 從犯ノ事

第三條

第四百四十一號 不論罪

第四條

第四百四十二號 監視ノ刑

第一條

(第四百三十七號)

草案ハ委員ノ少數ノ發議ニ拘ラス(第二百五十五號ヲ見ルヘシ)兇徒集會

ニ就キ規則ヲ載セス而シテ復タ佛國刑法ニ此集會人カ爲シ得ヘキ他ノ犯罪ヲ除キ此ノ集會ヲ認メテ公ケノ安寧ニ對スル重罪トスル處ノ例ニ反スルナリ

今復タ此類ノ集會ヨリ生スル處ノ犯罪ヲ措ヒテ其集會其物ヲ罰スルノ案ヲ立テタリ然レ

モ未タ之ヲ重罪ト稱スルニ至ラス須ラク之ヲ輕罪ト論シテ可ナルカ如シ何トナレハ若シ

之カ更ニ重キ犯罪ノ時機トナリ又ハ源因トナルヲアラハ其時ハ則チ更ニ重キ刑ヲ適用ス

ルニ至ルヘケレハナリ

又茲ニ此刑ヲ太タ嚴ニスヘカラサル他ノ事由アリ乃チ本節ハ前三節ノ場合ニ於ルカ如ク

恐クハ是ニ由テ他ノ犯罪ノアランヲ測想シタルニ過キサレハナリ故ニ現然社會ノ損害

ハ則チ之ニ由テ將來更ニ大ナル惡害ノアランヲノ危険ニ外ナラス

佛國刑法ノ首魁ヲ有期徒刑ニ尋常犯人ヲ懲役ニ(佛刑、第二百六十七條及第二百六十八條)



處スルハ頗ル其適度ヲ過キタルニ似タリ其過嚴ノ弊害遂ニ此法律ノ區域ヲ解釋シテ故ラニ縮少シ判例及ヒ學者ノ論說ハ本犯ノ集會人ニシテ輕罪ヲ犯スヲ企テタルニ過キサルカ若クハ擧黨竊盜又ハ他人ニ耻辱ヲ與ルノ輕罪ヲ現ニ犯シタルニ過キサル者ニハ刑ヲ適用ス可ラサルモノト確信セシムルニ至ル

〔第四百二十八號〕爰ニ立案スル所ノ諸則ハ概テ其刑ニ就テハ之ヲ佛國刑法ニ比スレハ更ニ寬ニスレモ亦其適用ノ區域ハ更ニ伸闊シタルナリ故ニ其相集テ企圖セシ所ノ犯罪ノ輕重等差ニ拘ラス苟モ人ノ身体又ハ財產ニ對シ罪ヲ犯ントセシ已上ハ其集會ヲ兇徒ノ集會トシテ罰スヘキナリ然リト雖モ其集會人相謀リテ違警罪ヲ犯ントスルニ過キサル場合ハ之ヲ除カサル可ラス何トナレハ其集會人ヲ兇徒ト名狀スルニ足ラサレハナリ之ヲ要スルニ集會人ヲ兇徒ト稱シハ渠等從前嘗テ重罪又ハ輕罪ノ刑ヲ受ケタリシ者ナルヲ要セス渠等ハ唯其集會ノ目的ト集會シタルノ一事ヲ以テ兇徒ノ資格ヲ稱スルノ價值アルモノナリ

〔八ノ身体又ハ財產ニ對スル重罪輕罪ナル正條ノ明文ハ甚ク廣漠ナリトハ雖モ國ノ靜謐、公安信教ノ自由及ヒ一般ノ公益ニ對スル犯罪ヲ兼括セサルナリ  
見徒集會ノ罪ノ地位ヲ「公事ニ對スル」犯罪ノ如ク第二篇ニ置キ又「公安ニ對スル」犯罪ノ如

ク第四章ニ據ヘタルハ外見ニ於テ奇異ノ思ヲ抱カシム(附言參看)然リト雖モ集會ノ將ニ爲ントスル所ノ犯罪ノ目的ハ「一個人民ニ對スル」ニ外ナラス然リ而シテ之ヲ爰ニ記スルモ論理ニ反スル所毫モアルヘカラス夫レ集會シテ相謀ルノ罪惡ハ縱ヒ人々各個ニ對スルノ惡害ニ過キスト雖モ其波及スルニ因リ其企謀ノ衆合体ナルニ源シ就中其人心ヲ動搖スルニ從テ其罪惡ハ自ラ天下國家ニ對スレハナリ

若シ或ハ兇徒贖金製造ヲ目的トシテ集會シ未タ其事ヲ行ハサル前ニ發覺シタルノ集會ヲ罰スルノ場合ヲ見ルコトアルハ敢テ疑フ可ラス實ニ其贖金者ハ贖金ヲ以テ物品ヲ購求シ又ハ純正ノ貨幣ヲ買フコト謀ルヘシ是則チ財產ニ對シテ罪ヲ犯スコト謀ルナリ

今集會犯ノ性質ヲ完了スルニ方テ爰ニ法律ハ其犯人ノ行爲同時ナルト衆合体ナルトヲ要求セサルコトヲ注意スヘシ故ニ各人ノ爲ス所人々相離レ各個相分ル、モ可ナリ唯其利益、所得ニ至テハ共同衆有ノモノタルヲ要ス是レ啻ニ金錢上ノ利益ノミナラス人々ノ満足即チ復讐、宿怨、嫉妬、又ハ妬欲ノ情ヲ共ニスル如キモ亦然リ

〔附言〕佛國刑法モ亦兇徒集會ノ罪ヲ國ノ靜謐ニ對スル重罪トセリ(第二百六十五條)

本節ハ他ノ法律ニ背ク集會即チ別段ノ法律ニ因テ既ニ禁セラレ若クハ禁セラルヘキモノニ適用セサルヤ亦辨テ候タス例ヘハ政治ノ集會、博徒ノ集會、乞丐ノ集會ノ如キ是ナリ○



如斯キ集會人ハ縱ヒ法律ニ背クモノナリト雖モ之ヲ兇徒ト稱フ可ラサルナリ

〔第四百二十九號〕 本犯ノ刑用ヲ定ントスルニ方テ余モ亦佛國刑法ノ如ク集會人ヲ唯二等ニ分ツノ立案ヲナシタリ即チ一方ニ在テハ煽動者及ヒ一等ニ位スル首魁二等ニ位スル首魁ナリ他ノ一方ニ在テハ尋常ノ集會人はナリ

第一ノ犯人ニ對シテハ常ニ輕罪ノ刑ヲ踰ヘサル已上ハ其刑ヲ重クセラレヘキ丈ケ重クスルヲ得然レモ二箇ノ理由ニ因テ罰金ヲ附加セス即チ一ハ本犯未タ何等ノ犯罪ヲモ爲シ遂ケサルモノト假想シタルモノナレハナリ一ハ兇徒ハ概シテ貧窶餘蓄ナキモノナレハナリ若シ本犯ノ集會人既ニ身體又ハ財産ニ對シ本條ヨリ更ニ輕キ禁錮ニ處シ且罰金ヲ附加スヘキ或ル犯罪ヲ犯シタル時ハ二刑並ヒ科スルヲ要ス蓋シ禁錮ヲ兇徒ノ集會犯ニ該テ罰金ヲ其因テ犯シタル犯罪ニ該ルノ意ヲ以テナリ(第一百十二條ノ二ノ第二項ヲ見ルヘシ)

第二條

〔第四百四十號〕 本條ニ指定スル方法ヲ以テ兇徒ノ集會ヲ贊助シタル者ハ從テ以テ論スヘキハ事理ノ當然ナリ

正條ハ殊ニ注意シテ其從犯人ハ總テノ集會人ト關係アルヲ要セスト言ヘリ而シテ本條ハ唯其隱匿所ヲ供給シタル者ニ對シ犯人ノ親戚姻族ナルニ因リ其罪ヲ論セキ

ルノ典ヲ揭ケスト雖モ蓋シ此ノ場合ニ在テハ第一百八十七條ヲ適用スルヤ疑ナカレ可シ本條ノ如ク犯人ノ數多ナルニ因リ首魁及其從屬人ニ係ル夫ノ第四百四十六條ニ定メタル從犯ノ事ニ付從犯ノ刑ハ主犯ノ刑ニ隨テ計量シ之ニ一等ヲ減スルモノナレハ須ク常ニ其從犯ハ首魁、張本人ヲ助ケタルカ若クハ唯其從屬ヲ贊ケタルカヲ審究スヘシト既ニ前ニ論告シ置キタリ請フ亦之ニ倣ヘ然レモ從犯人カ集會人二三ノ人ヲ助ケタルニ因リ全會ヲ助ケタルモノト斷定スヘキヲ往々之アルヲ注意スヘシ殊ニ其集會所又ハ隱匿所ニ保護ヲ與ヘタル時ハ尤モ然リトス

第三條

〔第四百四十一號〕 社會ノ損害未タ起ラサル前ニ犯人ヲシテ其惡謀ヲ放棄セシムルヲ獎勵スルハ法律ノ精神ナリ此ノ意向ヲ示スハ法ノ尤モ巧ナルモノナリ特ニ犯人ノ衆多ナル時ニ尤モ然リトス夫レ附和隨行ノ徒カ巨魁ニ離叛シ巨魁等其徒衆ヲ去リ斯ノ如クシテ互ニ離去シ終ニ其勢ヲ滅殺スルニ至ルハ法律ノ冀望スル所ナリ故ニ此ノ旨意ニ因リ已ニ第一百三十一條ノ第七及第八項及第四百四十一條ヲ以テ不論罪ノ典ヲ如斯キ者ニ與ヘタルナリ佛國刑法ハ此問題ヲ斷定スルヲ懈レリ又其第百條第百八條及第二百十三條ノ制定ニ類似スル制定モ兇徒集會ノ事ニ付再出スルヲ嘗テ之アラズ現ニ夫ノ第六十五條ニ於テ法律ノ



許ス場合ノ外不論罪又ハ宥恕ヲ申渡スヲ禁スト云フ正條ノ現存スルアリテハ今之ヲ補フ事難カルヘシ

然レハ佛國刑法ノ遺漏ハ茲ニ避ラレ且避ケサル可ラス

立法者ハ既ニ尋常集會人ト其首魁トノ別アルヲ保續セリ即チ第一者ニ在テハ其刑ヲ免ルニ未タ其罪ヲ犯サ、ル前及ヒ未タ集會人ノ孰ニ向テモ追捕ノ始ラサル前ニ方リ退去シタルヲ以テ足レリトス故ニ自首シテ縛ニ就クヲ要セス首魁ニ在テハ之ニ反シ自首シテ縛ニ就キ其他ノ集會人巨魁副巨魁并ニ通常集會人トモ悉ク陳供セサル可ラス然レハ渠レ裁判所ニ於テ此二箇ノ務(自首ト同)ニ服シタルノ理由ニヨリ縱ヒ裁判所追捕チ既ニ着手シタリト雖モ宥恕ノ恩典ヲ失ハシメサルナリ

第四條

〔第四百四十二號〕 監視ノ刑ハ茲ニ必ス附加セサル可ラス乃チ裁判所ニ於テ之ヲ申渡ス可シ本件ニ係ル所ノ兇徒ハ常ニ社會ノ秩序ヲ保安スルニ於テ永續ノ危險ナルヲ明白ナレハナリ

第七節 官ノ封印ヲ破壊シ及ヒ封印セル物件若クハ裁判所書記局所藏ノ物件ヲ竊取スル罪

封印ノ破 第二百三條 官ノ命令又ハ注意ヲ以テ門戶、箱櫃若クハ其他ノ物件ニ施シタル封印ヲ故ラニ破壊又ハ除棄シタル者ハ其所爲ノミヲ以テ一月已上一年已下ノ重禁錮ニ處シ四圓已上貳拾圓已下ノ罰金ヲ科ス(刑、第七十一條第一項)佛刑、第二百五十一條、第二百五十二條

竊取及ヒ 第二百四條 官ノ封印ヲ破壊シタル者人身ニ對シテ暴行ヲ加ヘ若クハ脅迫ヲ爲シタルヲナクシテ其封印シタル物件ノ全部又ハ一部ヲ竊取若クハ損壞シタル時ハ竊盜ノ刑ニ照シテ一等ヲ加フ(刑、第七十五條)佛刑、第二百五十三條

若シ人ノ身體ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル時ハ強盜ノ通常刑ヲ之ニ適用ス可シ(刑、第七十五條)佛刑、第二百五十三條、第二百五十五條、第二百五十六條

豫審ノ書 第二百五條 封印破壊ノ所業ニヨリ重輕裁判所ノ證書即チ未タ終ラサル詞訟ニ干係シタル證據ノ書類ヲ盜奪若クハ破壊シタル者ハ二年已上五年已下ノ重禁錮貳拾圓已上五拾圓已下ノ罰金ニ處ス(佛刑、第二百五十一條)

書記局ニアルモノノ竊取スル事 第二百六條 前條ニ掲ケタル詞訟ノ證據トナルヘキ書類ニシテ裁判所ノ書記局ニ藏メ又ハ裁判官、檢事、若クハ其補員ノ手ニ在ル者ヲ誑テ竊取若クハ毀損シタル者ハ平人ナレハ六月已上二年已下ノ重禁錮并ニ四圓已上四拾圓已下ノ罰金ニ處ス(佛刑、第二百五十四條)

看守人ノ刑 第二百七條 前條ノ罪ヲ犯ス者若シ封印ノ看守人、書記、又ハ其他ノ裁判所官吏タルハ其官ノ封印ヲ破壊シ及ヒ封印セル物件若クハ裁判所書記局所藏ノ物件ヲ竊取スル罪 八〇七



刑一等ヲ加フ(刑、第七十四條第二項○佛刑、第二百五十一條第二項及第三項、第二百五十二條)

唯怠惰ニヨリテ此罪ヲ犯シタル場合ニ於テハ五圓已上五拾圓已下ノ罰金ニ處ス(刑、第七十六條○佛刑、第二百四十九條、第二百五十條、第二百五十四條)

加重ノ情 第二百八條 本章ニ豫定シタル竊取又ハ損壞ノ場合ニ於テハ都テ竊盜又ハ強盜ノ刑ヲ本犯ニ屬シタル加重ノ情狀アルニ從ヒ第四百十一條、第四百十四條及第四百二十五條ニ照ラシテ之ヲ加重ス

未遂犯 第二百九條 前數條ニ記シタル輕罪ノ未遂犯罪ハ罰スヘシ(佛刑、第二百五十一條ノ第一項) 政府ノ財 第二百十條 右ノ外政府又ハ行政官ニ屬シ又ハ宗旨ノ用ニ供シタル動産不動産ヲ盜取毀壞シタル者ニシテ特別ノ刑罰ナキトキハ人民ニ對シテ犯シタル同一ノ罪ト同ク處斷シ第三編第二章ノ第一第二及第七ヨリ第十節ニ至ルマテ記載シタル區別ニ從フ

要旨

第二百三條 第四百四十三號 官ノ封印ヲ敬スル事○封印ヲ破壞シ及之ヲ除棄スルノ所爲ハ他ノ犯罪

ナシト雖モ之ヲ罰ス

第二百四條

第四百四十四號 封印セル物件ヲ竊取シタル者ハ其場合ニ因リ強盜又ハ竊盜ノ刑ヲ以テ

適用ス

第四百四十五號 此ノ場合ニ於テ破壞ノ罪ヲ竊盜ニ擬ス

第二百五條

第四百四十六號 未タ終結セサル詞訟ノ書類ヲ竊取又ハ破壞スル事

第二百六條

第四百四十七號 其書記局ニアル同上ノ書類ヲ竊取スル罪

第二百七條

第四百四十八號 看守人之ヲ竊取スル罪 附其懈怠ノ場合

第二百八條

第四百四十九號 竊盜犯ニ重加ノ情ヲ適該スル事

第二百九條

第四百五十號 此ニ定メタル犯罪ノ未遂犯

官ノ封印ヲ破壞シ及ヒ封印セル物件若クハ裁判所書記局所藏ノ物件ヲ竊取スル罪 八〇九



第四百五十一號 政府ノ財産ヲ竊取又ハ破壊スル事普通刑法ノ適用

第二百三條

〔第四百四十三號〕

封印ヲ施ス事ハ竊取ヲ豫防スル爲メ若クハ唯知リテ害アルヘキ人ノ関見ヲ豫防スル爲メ或ル物件ヲ保護スル時佛國ニ於テ專ラ用ユル處置ナリトス

佛國ニ於テ封印ヲ用ユルニ重ナル場合三個アリ即チ左ノ如シ

其一 死者アリテ其遺物相續人知レサルカ若クハ知レタリト雖モ不在ナル時或ハ一時代理サル、時

其二 商人家資分散ヲ爲シテ其債主ノ義務ニ充ルニ足ラサル抵當物タル自己ノ財産ヲ竊取スルノ恐アル時

其三 重罪若クハ輕罪ニ依リテ裁判所ヨリ證據又ハ罪證ト爲ルヘキ物件ヲ差押ヘタル時は等ノ場合ニ於テ若シ嫌疑アル者此物件ヲ竊取スルヲ得ルノミナラス之ヲ閱見スルヲ得セシメハ日後裁判所ノ糾問ヲ害ス可ケレハナリ

封印ハ封蠟ヲ用ヒテ物件ニ貼附スル尋常ノ帶紙又ハ羊皮紙ノ帶紙ヲ以テスルモノナルカ故ニ之ヲ以テ其物件ノ竊取若クハ閱見ヲ防クヘキ實用ヲ爲サ、ルモノナリ

又時トシテハ封印ノ監守人ヲ任スルヲアリト雖モ此法式ハ少シク費用ヲ要シ且其他ノ妨アルヲ以テ常ニ之ヲ用ユルヲ得ス故ニ尙ホ法律上ニ於テ刑ヲ科シテ以テ封印ヲ犯サ、ラシメサルヲ得サルナリ

此第一條ニ於テハ唯封印ヲ破壊又ハ除棄シタル所爲ヲ罰シテ後ニ其物件ヲ竊取シタルヤ否ヤハ措テ論セス且ツ該犯毫モ後來ノ犯罪ヲ目的トセサリシ時ト雖モ其破棄シタル所爲ノミヲ以テ尙ホ其罪ヲ罰スルナリ尤事ノ疎忽ニ出テ又ハ懈怠ニ依リ若クハ官ノ封印タルコトヲ知ラスシテ犯セルモノニ非スシテ即チ故意ヲ以テ之ヲ爲シタルヲ要スルナリ

此罪ヲ犯セル者ヲ罰スルノ刑ハ既ニ頗ル重シト雖モ封印ノ監守人自カラ此罪ヲ犯ス時ハ更ニ之ヲ加重スルナリ

第二百四條

第四百四十四號 封印ヲ破壊シタル者自カラ其封印シタル物件ヲ竊取若クハ損壞シタル時ハ第一ノ犯罪ト異リタル第二ノ犯罪ヲ犯セルモノトス然レヒ之ヲ一個ノ罰スヘキ所爲トス是レ總則(第百十五條及第百十六條ノ二)ニ豫見セル場合ニシテ數罪ヲ合シテ一罪ト爲セルモノナリ然レヒ亦格別ノ場合タルモノニシテ其數罪中唯最モ重キ犯罪ノ刑即チ本條ニ在テハ竊盜ノ刑ヲ科スルニ非スシテ特ニ其刑ニ照シテ一等ヲ加フ是レ道德及ヒ社會

官ノ封印ヲ破壞シ及ヒ封印セル物件若クハ裁判所書記局所藏ノ物件ヲ竊取スル罪 八一



ノ損害更ニ大ナルカ爲メナリ  
本條ニ於テハ封印ヲ破壊スルハ人ノ門戸ヲ損壞シタル竊盜ノ重加ノ情狀ト看做スチ得ヘキナリ

又本條ハ初ヨリ暴行若クハ強迫シタルヲナクシテ犯シタルモノト想像シテ竊盜ト言ヘリ  
ワイフランズ ムナリス  
(第四百十條ヲ看ルヘシ) ○若シ之ニ反スル場合ニ於テハ其罪ハ則チ強盜ノ重罪トナル(第四百二十四條)然レハ封印ヲ破壊スルハ未ダ其罪ヲ重加スルコ足ラサルナリ何トナレハ其破壊ハ公然外面ニ顯ル、破壊ニアラサレハナリ(第四百二十五條ノ第五項ヲ看ルヘシ)

〔第四百四十五號〕 又本條ニ於テハ封印シタル物件ヲ竊取シタルニ非スシテ唯之ヲ損壞シタル時ト雖モ同一ノ刑ヲ科セリ其刑ハ通例他人ニ屬スル動產ヲ毀壞シタル罪ノ刑ヨリモ遙カニ重キモノナリ蓋シ他人ニ屬スル動產ヲ毀壞シタル罪ハ竊盜ニ比スレハ之ヲ罰スルコト輕シ(第四百七十條及ヒ第四百七十一條ヲ見ルヘシ)是封印ノ目的ハ物件ヲ保存スルニ外ナラサルヲ屢々ナレハナリ且ツ該物件ヲ竊取又ハ損壞シタル者其物件ノ所有者タル時ト雖モ尙其刑ハ同一ナリ勿論此他ノ場合ニ於テ此事ハ罰ス可キモノニアラサルナリ此三個ノ場合ハ各々個別ニ之ヲ考察スレハ甚ダ相異ナルモノナリト雖モ之ヲ同視シタルヲ以テ觀レハ本條ノ目的ハ首トシテ官ノ封印ヲ犯サ、ラシムルニアルチ知ルヘシ

其他封印ヲ破壊シタル後ニ其物件ヲ閱見スルニ止マリ且其書類ノ寫ヲ取りタルニ止ル者ニ對シテハ封印ヲ破壊シ及ヒ除棄シタル罪ノ刑ヲ加ヘス唯封印ヲ損スルノ罪ニ處スルノ

并ニ封印ヲ破壊セシ本人タルニ非スシテ唯其破壊ニ乘シテ其中ニ在リシ物件ノ全部又ハ一部ヲ竊取若クハ損壞シタル者ハ其物件ノ所有者タルニ非レハ竊取又ハ動產ヲ毀壞シタル罪トシテ之ヲ罰ス可キノミ

第二百五條

〔第四百四十六號〕 立法者カ本條ニ於テ保護セントスル物件ノ大切ナルコトヲ認定スルハ甚ダ難カラス此物件ハ重大ナル刑事ノ詞訟ニ干係ス而シテ其詞訟未ダ了ラス故ニ社會并ニ被告人ハ此大切ナル證據ヲ失フニヨリ爲メニ利益ヲ害セラルヘシ依テ本條ハ其盜奪破壞ノ犯者ヲ罰スルニ最モ重キ輕罪ノ刑ヲ以テスルナリ  
若シ事ノ既決ニ係ル時ハ書類モ封印セラレス亦次條ノ管スル所ニアラサルナリ故ニ其書類ヲ竊取又ハ破壊スル者アラハ正ニ通常ノ刑ヲ適用スルアルノミ(第四百十條及第四百七十條ノ第二項ヲ比照スヘシ)

第二百六條

官ノ封印ヲ破壞シ及ヒ封印セル物件若クハ裁判所書記局所藏ノ物件ヲ竊取スル罪 八一三



〔第四百四十七號〕 本條ノ場合ト前條ノ場合トノ差異ハ本條ニ於テハ封印破壊ノ所業ナキ  
ニアラストス然リト雖モ其物件ハ兩條相同シク其詞訟モ亦未ダ了ラス其物件散逸セルニ  
非スシテ書記局又ハ裁判所官吏ノ手ニ在ルモノナリ故ニ其罪タル道德上ノ點ニ於テハ稍  
々輕シト雖モ社會ノ損害ハ尙ホ頗ル重大ナリ故ニ其刑稍々輕シト雖モ尙ホ頗ル重キモノ  
ナリトス

本條ハ暴行ノ事ヲ豫定セス然レモ若シ之アル日ニ於テハ第二百四條之ニ適用セラレヘキ  
ヤ更ニ疑ヲ容ル可ラス〔附言參看〕

〔附言〕 舊草案ニ於テ暴行ハ第二百八條ノ第二項ノ要目ナリシカ今此第二百六條ニ修  
正ヲ加ヘタルヲ疑ヲ容レス余ハ此ノ要目ヲ第二百四條ノ第二項ニ掲ケシト雖モ猶ホ本  
條ノ場合ニ於テモ重加ノ力ヲ保有ス

第二百七條

〔第四百四十八號〕 他人ノ犯罪ヲ豫防スヘキ任アル官吏或ハ政府ノ信任ヲ受ケテ本犯ノ爲  
メニ害セラレヘキ利益ヲ守ル人ニシテ本犯ヲ犯セルトハ其罪更ニ重キ加フルハ本典ノ一  
般ニ奉遵スル處ノ原則ナリトス  
此第一ノ場合ニ於テ官吏ノ犯罪セルモノ、刑ヲ加重スルハ總則ニ見ユタリ（第九條）本

章（第八十一條）ニ囚人ノ逃走ヲ助ケタル看守人ハ牢獄ノ事務ニ關係ナキ其他ノ者ヨリ  
其刑ヲ加重スヘシトアリ又竊盜ハ手代若クハ奴僕ノ之ヲ犯スルハ其刑ヲ加重スルコト後  
ニ見ユ（第四百一十一條及第四百二十五條）

是ヲ以テ觀レハ封印ノ看守人ニシテ封印破壊ノ罪ヲ犯セハ平人ノ之ヲ犯シタルモノヨリ  
更ニ嚴罰ヲ加フヘキハ理ノ當然ナリ證據ノ書類ヲ竊取破壊シタル看守人モ又之ニ同シ  
此看守人怠惰ニヨリテ此罪ヲ犯シタル時ハ罰金ヲ科スルヨリ外ニ之ヲ罰スヘキ手段ナカ  
ルヘシ何トナレハ若シ之ヲ禁錮ニ處スルトモ輕禁錮即チ定役ニ服セサル禁錮ノ外ニ處ス  
ルヲ得ス故ニ之カ爲メニ大ナル利益ヲ見スシテ唯其勤務上ニ不便ヲ醸生スヘキヲ以テナ  
リ且ツ其職掌ハ給料多キモノニ非ルカ故ニ多額ノ罰金ヲ科スルヲ得ス

但シ怠惰ノ官吏ハ刑法ヨリ更ニ嚴ナル罰責ヲ加フヲ得即チ其場合ノ輕重ニヨリ行政官ニ  
於テ職務ヲ免シ若クハ之ヲ中止スルヲ得ル是レナリ  
於テ職務ヲ免シ若クハ之ヲ中止スルヲ得ル是レナリ

第二百八條

〔第四百四十九號〕 法律既ニ竊取ノ刑ヲ以テ本章竊取ノ場合ヲ罰スル以上ハ竊盜ノ刑ヲ加  
重スルノ例モ亦此場合ニ於テ通常ノ效力ヲ生スヘキモノナリトス竊盜又ハ強盜ヲ加重シ  
其刑一等ヲ加ヘシムル所ノ情狀如何ハ第四百一十一條ニ見ユ

官ノ封印ヲ破壞シ及ヒ封印セル物件若クハ裁判所書記局所藏ノ物件ヲ竊取スル罪 八一五



〔第四百五十號〕 輕罪ニ就テ屢々設ケタル所ノ此規則ハ別ニ註解ヲ爲スヲ要セス寧ロ此規則ナキ場合ニ於テ其何故タルヲ註釋スルヲ必要トスヘシ

第二百十條

〔第四百五十一號〕 人民ノ財産ニ害ヲ加ヘタル者ヨリハ政府ノ財産ニ害ヲ加ヘタル者ヲ嚴ニ罰スルコトハ正義公道ニ合セサルヘシ

其國ノ安寧ニ干スルノ物件ニアラスシテ唯政府ノ所有ニ係ルニ過キサルモノヲ竊取毀壞シタル犯人ニ對シテ更ニ重キ罰ヲ加ルハ決シテ褻ムヘキノ理由ナシ

道德ニ背クノ點ヨリ見ルニ其犯人ハ人民ノ財産ヲ害スル者ニ比シテ更ニ大ナラサルノミナラス世人動モスレハ政府ノ財産ヲ見テ一個人ノ財産ノ如クニ尊重ナラスト想像スルノ弊習アリ今其凡常ノ見ル所ニヨレハ政府ハ一種ノ空物ニシテ漠然タル一個ノ想像物ナリ

或人ハ政府ヲ害スルハ全國人民ヲ害スト言フト雖モ人民ハ之ニ反シ政府ノ損失ハ其損失ヲ許多ノ納稅者ノ間ニ分ツテ各自ノ損害ハ甚タ僅々ナルカ故ナリト

余ハ此論ヲ眞理ナシト輕蔑スルヲ得ス政府ノ財産ヲ盜ム者ハ道德ヲ損害スル相同シト論スト雖モ社會ノ損害ヲ稍々減スルモノ、如シ

此理由タル決シテ其刑罰ヲ減スヘキモノニアラスト雖モ之ヲ重クセサルノ一理由ト爲スヲ得ヘキナリ

第八節 公務ヲ行フヲ拒ム罪

國安保全ノ職

第二百一十一條 凡ソ陸海軍ノ將校又ハ下士タル者行政又ハ司法官署ヨリ出兵ノ要求ヲ受ケ之ヲ肯セサル者ハ一月已上六月已下ノ輕禁錮ニ處シ五圓已上五拾圓已下ノ罰金ヲ科ス(但シ更ニ重キ重罪輕罪ノ從犯アリタルニ因リ更ニ重キ刑ヲ科スルモノト抵觸ス可ラス)刑、第百七十七條○佛刑、第二百三十四條)

鑑定

第二百十二條 凡ソ醫師、軍醫、舍密家其他自己ノ職務ニ因テ官ヨリ解剖鑑定又ハ或ル検査ヲ爲スコトヲ命セラレタル者正當ノ故ナクシテ之ヲ肯セサル時ハ四圓已上四拾圓已下ノ罰金ヲ科ス(刑、第百七十九條)

傳染病流行ノ場合

傳染病流行ノ際又ハ傳染病ノ疑アル船舶ノ入港スルニ方リ醫師及ヒ軍醫其病患ヲ検査シ又ハ其病毒ヲ撲滅スルコトヲ官署ヨリ命セラレ正當ノ故ナクシテ之ヲ肯セサル者ハ前項ノ刑ニ同シ

唯獸類傳染病流行ノ際獸醫其職務ヲ行フコトヲ肯セサル者ハ三圓已上三拾圓已下ノ罰金ニ處ス(刑、第百八十一條)

公務ヲ行フヲ拒ム罪



兵役ノ脱 第二百十三條 陸海軍ノ兵役ヲ脱スルノ目的ヲ以テ自ラ支體ヲ損毀シ不具癡人ヲ作爲セシ

者ハ一月已上一年已下ノ重禁錮ニ處シ且三圓已上三拾圓已下ノ罰金ヲ科ス(刑第百七十八條第一項○佛刑、第二百二十五條同千八百七十二年七月廿七日ノ佛法第六十三條)

前項ノ罪ヲ犯サントシテ未ダ遂ケサル者ハ之ヲ罰ス

其他總テ徵兵ヲ拒ムノ場合ハ徵兵例ニ依テ之ヲ處斷ス

其他要求セラレタ 第二百十三條ノ二 (其他總テ正當ニ要求セラレタル職務ヲ故ナクシテ肯セサル者ニ對シ別ニ刑罰ナキ時ハ之ニ貳圓已上拾圓已下ノ罰金ヲ科ス(刑第百八十條、第四百二十六條ノ第二項○佛刑、第二百三十六條)

要旨

第二百十一條

第四百五十二號 本節ニ定メタル不肯ノ性質

第四百五十三號 陸海軍ノ官省ヨリ發スル命令ノ場合

第二百十二條

第四百五十四號 鑒定ヲ爲スチ肯セサル罪○刑法草案ト治罪法草案トノ間ニ在リシ舊時

ノ矛盾○頒布法典ニ定メタル所ノ調和ノ方ヲ採リシ事

第四百五十五號 傳染病及獸類傳染病ノ際ニ職務ヲ肯セサルノ罪

第二百十三條

第四百五十六號 徵兵ヲ拒ムノ罪○故ラニ身體ヲ毀損シ癡人ヲ作爲スル罪

第四百五十七號 第二百四十七條ノ變更

第四百五十八號 種々ノ意說

第二百十三條ノ二

第四百五十九號 其他正當ニ要求セラレタル職務ヲ肯セサル事

第二百十一條

(第四百五十二號) 一國ノ臣民中他人ヨリモ更ニ法律ヲ遵奉シ官憲ニ對シテ從服ス可キ責

アル者アリトセハ其者ハ他人ヲシテ其法律及ヒ官憲ノ命ヲ遵奉セシムルノ任アル人特ニ

陸海軍ノ將校是レナルヘシ蓋シ到底社會ノ威力ヲ恃ムヘキハ陸海軍ノ將校ニアレハナリ

凡ソ軍秩上ノ階級如何ヲ問ハス兵隊ノ司令官タル者若シ之ニ出兵ヲ要求シ得ル官憲ヨリ

受ケタル所ノ命令ヲ敗リタルヲ不問ニ付スル時ハ兵力ハ法律ヲ保護スルニ用ユルニ非ス

シテ却テ法律ヲ傾覆スル爲メニ用ユルニ至ルヘシ

公務ヲ行フナ拒ム罪



本條ニ記載シタル將校及ヒ下士タル者其勤務ヲ行フヲ肯セサルカ爲メニ罰セラレノニハ其勤務ヲ正シク之ニ要求シタルコトヲ要ス即チ其要求ノ權利ヲ有スル官憲ヨリ之ヲ要求シ且ツ適當ナル法式ヲ用ヒテ其要求ヲ爲シタルコトヲ要スルナリ

此法式ハ一般ニ甚ク簡單ナルモノニシテ若シ書面ヲ以テ要求スル時ハ其要求ヲ爲セル官憲ハ二様ニ意義ヲ解シ得ルコトナク明瞭ニ示スヲ以テ足レリトス又其要求スル所ノ事件ヲ精密ニ示シ且ツ其處置ヲ爲スヘキ時ト場所トチ明示スルヲ要スルルハ之ヲ記載スヘシ然レモ其要求ノ理由及其正當ナル原因ヲ示與スルヲ要セス何トナレハ軍隊ハ之ヲ論議是非ス可ラス是ニ由テ服從ノ義務ヲ肯セサルノ權軍隊ニ有セサレハナリ

其命令ノ頗ル明瞭精密ニシテ執行シ得ヘキヤ否ヤ要求シタル官憲ノ其命令ヲ與フル權アルヤ否ヤハ刑事裁判所ニ於テ之ヲ判斷スヘシ  
本條ニ於テハ陸海軍ノ出兵ヲ要求シ得ル所ノ行政又ハ司法官憲ヨリ其要求ヲ爲シタルコトヲ想像スルノミ即チ行政官ハ事ノ秩序ヲ維持整頓スルタメニ之ヲ請ヒ司法官ハ其命令又ハ裁判ヲ實施スルタメニ之ヲ請フモノナリ

若シ其命令陸海軍ノ官憲ヨリ出タルモノニシテ之ニ服從セサリシ時ハ軍務ノ本分ヲ關キタルノ罪ニ屬ス可キヲ以テ軍律中ニ就テ其刑ヲ求ム可キナリ而シテ其處刑モ亦同シク

陸海軍裁判所ノ管轄タルヘシ本條ニ論スル將校ノ罪ハ多少國事犯ニ關スル發起心ヲ有スルカ故ニ本條ハ之ヲ一般ニ國事犯ノ刑タル輕禁錮ニ處スルノミ  
又若シ陸海軍ノ尋常ノ官吏其長官ニ對シテ服從セサル罪ヲ犯セシ時ハ其刑ハ軍律上ノ刑即チ嚴肅ノ刑タル可クシテ本刑法ノ間ハサル所タルコトヲ注意ス可キナリ  
本條ハ其畢ニ臨ミ服從ヲ拒ムノ所爲ハ謀反人ト相通謀シタル結果ナルヲアルヲ豫定セリ此ノ場合ニ在テハ更ニ重キ國事犯ノ輕重罪ニ加擔シタルカ又ハ從犯シタルモノナル可シ

第二百十二條

〔第四百五十五號〕 本條ノ第一項ニ論スル所ノ要求ハ行政官ヨリモ出ルコトアルヘシト雖モ多クハ司法官ヨリ出ツヘク而シテ鑒定ハ重罪又ハ輕罪ノ豫審ヲ明カナラシムル爲メニ之ヲ爲スモノナリ

本條ヲ草シタル後治罪法ニ於テモ同シク鑒定人其職務ヲ行フコトヲ肯セサル場合ヲ豫見セサルヲ得サリキ而シテ治罪法編纂者ハ既ニ刑法ニ於テ此場合ヲ規定セシコトヲ考ヘサリシニヤ又ハ其刑ヲ重キニ過クルモノト思ヒシニヤ此治罪法ニ於テハ其罰金ヲ貳圓以上拾圓以下トナシタルノミ(治罪法草案第二百十條及第二百十一條ヲ見ルヘシ)治罪法ニ於テハ職務ヲ行フコトヲ肯セサル鑒定人ニ對シテ出頭又ハ供證ヲ肯セサル證人ニ科スル所



ノ刑ヲ科シタルノミ(治罪法草案第九十二條)

蓋シ鑒定人ノ刑ハ更ニ之ヲ重クセサルヲ得サルカ如シ何トナレハ鑒定ハ供證ニ比スレハ更ニ必要ナルコトアル可ケレハナリ其議ノ如何ヲ措キ兩法典俱ニ鑒定人ヲ罰スル已上ハ宜ク其刑罰ヲ同フセサルヘカラサルナリ

草按改正委員ハ簡單ノ方ニ依リ此相支梧スル點ヲ止メシメンカ爲メ刑法治罪法ノ間チ一致共同セシメタリ即チ鑒定人ニ對シ貳圓已上拾圓已下ノ罰金ヲ科スルヲ存セシト雖モ唯鑒定ヲ爲スノ命令ヲ受ケテ其請求ニ應シナカラ裁判所ニ出庭セサル者ニ之ヲ科スルノミ(頒布治罪法第九十二條)又一回ヒ出庭スト雖モ宣誓ヲ拒ミ又ハ鑒定スルヲ肯セサル鑒定人ニ對シ四圓已上四拾圓已下ノ罰金ヲ科スルヲ存シテ(頒布治罪法第九十四條及頒布刑法第七十九條)證人ニ對シ同一ノ區別ヲナシ且同一ノ裁判ヲ定メタリ即チ出庭ヲ肯セサル證人ニ對シ貳圓已上拾圓已下ノ罰金ヲ科シ其宣誓ヲ拒ミ又ハ供證ヲ肯セサル證人ニ對シ四圓已上四拾圓已下ノ罰金ヲ科ス(頒布治罪法第七十六條第百八十三條及頒布刑法第百八十條ヲ比照ス可シ)

我カ草案ニ於テモ兩法典ノ支梧ナカラシメント欲セハ同上ノ區別ヲ採用セサルヲ得ス故ニ余ハ此意ヲ以テ治罪法草案第二百一十一條ヲ更正シタリ(草案ノ更正ヲ看ルヘシ)

〔第四百五十五號〕 此第二百一十二條ノ第二項ノ場合ハ適當ニ之ヲ言ヘハ鑒定ノ場合ニアラサルナリ何トナレハ此醫委ハ特リ傳染病ヲ診案鑒定スルノミナラス傳染病ヲ撲滅セシムル爲ニ之ヲ召出スヲアルヲ以テナリ此罪ハ社會ノ損害上ニ就テハ他ノ職務ヲ肯セサル者ヨリモ更ニ重大ナリト雖モ前上ト甚タ密接スル場合ナルヲ以テ法律ニ於テ餘リ其刑ノ差等ヲ大ナラシム可ラサルナリ

獸類傳染病ノ場合ニ於テ獸醫ニ關シテハ本草案ハ其刑ノ一等ヲ減セリ然レモ直接本位ノ刑ヲ定ルノミ蓋シ是ヲ構成スル犯事ノ性質全ク變更スルモノナレハ逐次減等ノ例ト混視ナカラシメンカ爲ナリ

第二百十三條

〔第四百五十六號〕 夫レ兵役ナルモノハ一國ノ臣民ヲシテ之ヲ容易ニ免レシメサルヲ要スル所ノ公役ノ一タリ其體格ノ完全無缺ヲ要スルカ故ニ或ル神助ニ充ル劣等ノ服務ヲ除キ一般ニ徵兵士官ハ不具癡人ニアラサル壯年子弟ヲ兵役ニ徵募セサル可ラス是ニ於テカ武事ヲ厭ヒ其勞渡及戰爭ヲ恐怖スル者ハ自ラ其支體ヲ毀テ癡人ト成リ以テ苟モ兵役ヲ免ゾトテ之レ謀ルモノナシトセサルノ理由生ス

往時日本國ニ於テハ武人自ラ貴族ノ一種ヲナシ兵務ニ從事スルノ資格ハ殆ト其種族ノ特



權ト並ヒ世襲ナリシカハ此類ノ犯罪有ルノ恐ナカリシト雖モ今ヤ兵役ハ國民一般ノ義務トナリ其報酬ハ人々國家ニ報スルノ義務ヲ盡シタル良心ノ満足ニ外ナラサレハ亦此類ノ犯罪無キニシモアラス其例モ亦無キニアラサル可シ

本條ノ犯人トナルヘキ者ハ未タ軍屬ニアラサルモノト想像シタルモノナリ故ニ此罪ヲ豫定シテ之ヲ罰スルハ尋常ノ刑法ニ在テ軍律ニ在ラサルナリ之ニ反シ陸軍刑法ニ於テハ既ニ軍人軍屬ノ籍ニ編入サレタル者之ヲ犯シタルヲ想像シ更ニ之ヲ嚴罰スルナリ

〔第四百五十七號〕 原草案ニ於テハ此ニ論スル所ノ犯罪ノ刑ハ偽造ノ支體ヲ毀スルニ係ル場合ニ定メタリ(第二百四十七條)而シテ尋常偽造ノ場合ヨリモ更ニ其刑ヲ重クセリ何トナレハ社會ノ損害償フ可ラサレハナリ之ニ反シ其他ノ偽造ハ其偽造ナルヲ露見スル時ハ常ニ脱兵ヲ入營セシムルヲ得レハナリ

今頒布正條ニ擬シテ余ハ此犯罪ヲ偽造ノ場合外即チ法ニ適ヒ請求セラレタル職務ヲ肯セサルノ節ニ掲ケタリ蓋シ此節ヲ其地位トスルヲ以テ更ニ良シトスレハナリ  
其刑罰ニ就テハ一ニ頒布正條ニ掲ル所ノモノニ從フ唯其刑ノ少ク輕ニ過ルヲ感スルアルノミ蓋シ犯人躬自ラ毀傷シテ遂ニ回癒ス可ラサルニ至リ終身之ヲ悔ルノ情アルヲモ亦察セサル可ラサルナリ要スルニ本刑ハ佛國法律ノ正條ニ記スルモノト同一ナリ

〔第四百五十八號〕 立法者ハ禁錮滿期ノ後犯人ヲ兵務官ニ致シ兵務官適宜ニ之ヲ裁斷シテ兵籍ニ入ルヘシト明言スルヲ必用ナリト信セサリキ勿論體格ヲ不具ナラシメント企テタルヲ以テ兵役ヲ免スルノ理ナキヲ炳カナレハナリ佛國ノ法律ハ此意味ヲ以テ之ヲ解ケリ蓋シ其法律ハ別段設ケラレタル徵兵令ニシテ刑法ニアラサレハナリ日本ノ新徵兵令モ亦正ニ均ク之ヲ說解スルアラソク信スルナリ

又此ニ就キ注意スヘキヲアリ本節ニ於テ未遂犯ヲ罰スルハ唯本犯ノミ實ニ罪ヲ將ニ犯ソトスル形蹟ノ稍々判然タルモノアルハ本節中唯是場合ニ限ルナリ  
若シ該犯人其共犯人ヲ有スル時ハ縱ヒ其共犯人ハ徵兵ニ應スヘキ人ニアラス又徵兵ヲ脱セシ人ニアラスト雖モ之ヲ一般ノ原則ニ照シテ處斷スヘキハ復タ言テ俟タス第二百四十七條ノ舊條ハ其正文ニ之ヲ明記スト雖モ必シモ之ヲ明記スルヲ要セサルナリ  
正條ハ唯徵兵令ヲ違背スル場合ノ處分ハ一ニ陸海軍徵兵召募ノ例規ニ委シ而シテ此ヲ違背スルノ目的ヲ以テ偽造詐欺スルヲアラハ第二百四十七條ヲ以テ之ヲ處斷ス

第二百十三條ノ二

〔第四百五十九號〕 余ヲ以テ之ヲ觀レハ本條ハ此一般ノ規則闕如セルヲ以テ此規則ヲ明記シテ其闕ヲ補フ可キニ似タリ若シ此規則ナクンハ凡ソ人民一般ノ災禍、火災、洪水等ノ場



合ニ於テ官ニ助力シ若クハ各自ノ人民ニ助力ス可キノ要求ヲ受ケタル者其助力ヲ肯セサルト雖モ之ヲ罰スルコトヲ得サルニ至ルヘシ

且ツ治罪法ニ於テハ正當ニ要求セラレタル職務ヲ行フコトヲ肯セサル其他ノ場合ヲ豫定シテ之ヲ罰シタリ故ニ豫定セサル場合ニ付テ記シタルニ過キサル本條ヨリモ治罪法ノ規則ヲ取ル可キナリ

是ノ故ニ凡ソ證人出頭シテ宣誓又ハ供證ヲ肯セサル者及ヒ出庭セサル陪審ハ治罪法第九十二條及ヒ第四百四十七條ニ依テ罰セラル、ナリ







